MS・キャラクター・ヒストリー ―― 全ガンダムシリーズの完全記録

THE OFFICIAL GUNDAM PERFECT FILE

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

定価590円(税込)
2012/9/25
51

特別付録
ファイリングに便利なステッカー 付き

今週のMS❶
GNT-0000 00 QAN[T]

MECHANIC FILE
ダブルオークアンタ／Sガンダム／
ガデラーザ／ジュピトリス／ハイペリオン

PERSONAL PROFILE
刹那・F・セイエイ／
デカルト・シャーマン／アムロ・レイ／
カイ・シデン／セイラ・マス

WORLD GUIDE
来るべき対話／
純粋種イノベイター用機動兵器／
木星船団

AD TIMELINE
ガンダムマイスター、集結

GLOSSARY
『機動戦士ガンダムZZ』用語集

今週のMS❷
MSA-0011 "S"GUNDAM

刹那・F・セイエイ

木星船団

DeAGOSTINI インターネットでパートワークをより楽しく deagostini.jp

THE OFFICIAL GUNDAM PERFECT FILE

CONTENTS

第51号　目次

MECHANIC FILE　メカニックファイル

ダブルオークアンタ	00 FILE:01 / SHEET:19A	51-1
Sガンダム	AGS FILE:01 / SHEET:58A	51-5
ガデラーザ	00 FILE:01 / SHEET:25A	51-9
ジュピトリス	Z FILE:01 / SHEET:34A	51-11
ハイペリオン	AGS FILE:01 / SHEET:159A	51-13

PERSONAL PROFILE　パーソナルプロファイル

刹那・F・セイエイ	00 FILE:02 / SHEET:01C	51-15
デカルト・シャーマン	00 FILE:02 / SHEET:17A	51-17
アムロ・レイ（名言）	Z FILE:02 / SHEET:12B	51-19
カイ・シデン／セイラ・マス	Z FILE:02 / SHEET:18A	51-21

WORLD GUIDE　ワールドガイド

来るべき対話	00 FILE:03 / SHEET:17A	51-23
純粋種イノベイター用機動兵器	00 FILE:03 / SHEET:30A	51-25
木星船団	Z FILE:03 / SHEET:37A	51-27

AD TIMELINE　西暦年表

ガンダムマイスター、集結	00 FILE:04 / SHEET:07	51-29

GLOSSARY　ガンダム用語辞典

『機動戦士ガンダムZZ』用語集	ZZ FILE:05 / SHEET:05	51-31

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』

特製バインダー好評発売中

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は、特製バインダーを使ってファイリングしていくユニークな雑誌です。この特製バインダーを、全国の書店で販売しております。2冊セットで590円（税込）。ぜひお買い求めください。

※このバインダーには、ディバイダー（仕切り用紙）はついていません。
　創刊プレゼントのバインダーについているディバイダーをご利用ください。
※1冊のバインダーに、本誌約10冊分を綴じることができます。

［発行日］2012年9月25日
［発　行］株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
　〒104-6205　東京都中央区晴海1-8-12 トリトンオフィスタワーZ
［発行人］小河原和世
［編集人］クロス中山慶子
［チーフエディター］安部 翠
［アートディレクター］今福健司
［印　刷］大日本印刷株式会社

©2012 K.K.DeAgostini Japan All rights reserved.
本誌の記事・写真・絵画等を無断で複写（コピー）、転載することを禁じます。

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は、2004年に弊社が刊行した週刊『ガンダム・ファクトファイル』の一部を流用しておりますが、最新のシリーズ作品やガンダム関連情報、新規描きおろしイラストなどを多彩に盛り込み製作したビジュアルマガジンです。

［編集協力］MEGALOMANIA（富田英樹／渡邉洋三／高村泰稔／本田あきら／鈴木秀治／公森直樹／桑木貴章）
［執　筆］坂口徳仁／杉山和繁
［デザイン］ケークルーデザインワークス（中村亮平／萩口洋文／出嶋 勉／生馬沙知子／冨岡哲也／及川深紗子）
［表紙イラスト］中谷誠一（ダブルオークアンタ）／寺岡 巌（Sガンダム）
［監　修］株式会社サンライズ

©創通・サンライズ
©創通・サンライズ・MBS

●読者サービスセンター
（本誌関連の一般的なご質問を承ります）
TEL：0570-008-109（月～金 10:00～18:00 土日祝を除く）

定期購読のご案内

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』は毎週火曜日発売のマガジンシリーズです（一部地域を除く）。シリーズは全180号を予定しています。シリーズ全号が確実にお手元に届くように、書店を通じての定期購読をお勧めいたします。最寄りの書店で、定期購読または予約購読をご用命ください。また、小社を通じての直接定期購読を希望される方は、次のいずれかの方法でお申し込みください。

1. 読者受注センターに電話またはファクスで
　TEL：0120-300-851（フリーダイヤル 9:00～21:00 年末年始を除く）
　FAX：0120-834-353（フリーファックス 24時間受付）
2. インターネットで
　http://deagostini.jp/gpf/（24時間受付）
　※ケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
3. 定期購読申し込み用紙を郵送で
　「定期購読のお知らせ」がお手元にない場合は受注センターまでご連絡ください。

バックナンバー／バインダー注文のご案内

本誌のバックナンバー／バインダーは最寄りの書店でご注文ください。なお、バックナンバーの在庫数には限りがございますので、その旨ご了承ください。直送（別途送料要、代引き）のご注文も承っております。上記読者受注センターまでお問い合わせください。

【個人情報のお取り扱いについて】ご注意 お申し込み前に下記規約を必ずお読みください。 1. 弊社は、商品発送と連絡、会員情報のためのデータの集約と分析、プレゼント発送、商品情報のお知らせのご案内への活用、不良品対応の場合のお客様への連絡及び関連品の発送、以外の目的で個人情報を利用しません。 2. 弊社はお客様に事前にご了承を得た場合、及び下記の場合を除き、第三者に個人情報を提供・開示しません。（1）法令に基づき、司法、行政、または関与機関から情報開示の要請を受けた場合（2）クレジットカード決済のため、弊社と同等以上の管理体制を有する会社への情報提供の場合 3. 弊社は注文受付、配送、代金回収、カスタマーサービスなど、保有する個人情報を必要な範囲で委託することがあります。委託先は契約等により厳重に管理され、業務遂行上必要な個人情報を利用し、それ以外の目的では利用しません。 4. 個人情報の収集に関するお問い合わせ、ご連絡は、お客様の任意です。定期購読やプレゼント等の申込書に未記入部分がある場合、手続がとれない可能性もありますが、それ以外の不利益は生じません。ご購入前に、定期購読受注センター 0120-300-851 5. 個人情報の利用目的の通知、個人情報に関する開示、訂正・追加・削除、利用停止・消去・第三者への提供の停止、又は苦情の申し出は下記窓口までご連絡下さい。デアゴスティーニ・ジャパン個人情報保護相談受付窓口　電話番号 03-5233-7722 ※受付時間 10:00-18:00（土日・祝日、弊社休業日を除く）※ウェブサイトで個人情報保護の詳細をご案内しております。http://deagostini.jp/security/

プライバシーマーク 10190770(03)

本誌の最新情報をCheck!
PCからもケータイからも同じアドレスでアクセスできます。
http://deagostini.jp/gpf/

このパーフェクト・ファイルで扱うガンダムシリーズ

本誌では、映像化された28作品のガンダム・シリーズを中心に取り扱います。OVAや映画など、異なる形態でリリースされた作品も各シリーズにまとめ、ひとつのシリーズとしてアイコン化しています。また、書籍やゲーム、プラモデルなど、映像化されなかった作品を「AGS」としてまとめて取り扱います。

■宇宙世紀を舞台にしたシリーズ
- FG 機動戦士ガンダム
- 08 機動戦士ガンダム 第08MS小隊
- IGL 機動戦士ガンダム MS IGLOO 1年戦争秘録、黙示録0079
- IGL2 機動戦士ガンダム MS IGLOO2 重力戦線
- GC GUNDAM CRISIS
- RIDE GUNDAM THE RIDE
- 80 機動戦士ガンダム0080 ポケットの中の戦争
- 83 機動戦士ガンダム0083 スターダストメモリー
- Z 機動戦士Zガンダム
- GD ガンダム新体験 −0087− GREEN DIVERS
- ZZ 機動戦士ガンダムZZ
- CCA 機動戦士ガンダム 逆襲のシャア
- UC 機動戦士ガンダムUC
- F91 機動戦士ガンダムF91
- V 機動戦士Vガンダム

■宇宙世紀とは別の世界を舞台にしたシリーズ
- GG 機動武闘伝Gガンダム
- W 新機動戦記ガンダムW
- EW 新機動戦記ガンダムW Endless Waltz
- X 機動新世紀ガンダムX
- V ∀ガンダム
- SEED 機動戦士ガンダムSEED
- DES 機動戦士ガンダムSEED DESTINY
- SG 機動戦士ガンダムSEED C.E.73 STARGAZER
- 00 機動戦士ガンダム00
- AGE 機動戦士ガンダムAGE

■その他の作品
- AGS 非映像化作品 ※AGSは、「ANOTHER GUNDAM STORY」の略です。
- RG Ring of Gundam
- EVL GUNDAM EVOLVE

「対話」のためのMS

GNT-0000

ダブルオークアンタ

00 QAN[T]

■ SPEC

全高	——（頭頂高 18.3m）
重量	63.5t
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	Eカーボン
武装	GNソードV ／ GNシールド（GNソードビットA・B・C）
所属	ソレスタルビーイング
搭乗者	刹那・F・セイエイ

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

頭部
頭部の形状は、かつて刹那・F・セイエイが搭乗した第三世代機・ガンダムエクシアに似ている。これは、メカニックのイアン・ヴァスティのアイディアと言われる。

左肩部
左肩上にレイアウトされたGNシールドは、背部からアームによって接続されている。シールドにはGNドライヴが内蔵されているが、外側からは見えないようになっている。

背部
ダブルオーガンダムでは両肩に設置されたGNドライヴであったが、本機では胸部中央とシールドに設置されている。背部からもGNドライヴの姿が一基見える。

脚部
運動性能に優れた脚部。クアンタムバースト時に展開されるGNコンデンサーを膝関節に備えるが、通常時はカバーパーツで保護されている。

イノベイターへと進化した刹那のためのガンダム

西暦2312年の戦いを終えたソレスタルビーイング（CB）は、「イオリア計画」の第三段階である人類の外宇宙への進出と、来るべき対話への準備として新たなガンダムの開発をスタートさせた。これまでのMSはその戦闘能力のみに重点が置かれてきたが、「対話」という命題を実現するため、真のイノベイターとして進化した刹那の能力と、ツインドライヴシステムの性能を最大限に発揮することを主眼とした機体を構築。そして完成したのが、「クアンタムシステム」を搭載したダブルオークアンタであった。

ダブルオークアンタは、ツインドライヴシステムの安定化を図るため、新造のGNドライヴ2基を使用している。これにより、ベース機となったダブルオーガンダムでは不可能であった単機でのツインドライヴ制御に成功した。また、対話のための特殊機能としてクアンタムシステムを搭載し、トランザムバースト以上のGN粒子を放出する「クアンタムバースト」を実現。理論上、あらゆる物体との対話を可能とした。GNソードVやGNソードビットなど、武装もリニューアルされたことで高い戦闘能力を有するが、あくまで対話を実現するためのツールとして存在している。

関連ファイル

GN-001 ガンダムエクシア	00-01-02
GN-0000 ダブルオーガンダム	00-01-14
刹那・F・セイエイ	00-02-01
ティエリア・アーデ	00-02-05
純粋種イノベイター用機動兵器	00-03-30

FILE PREVIEW
00-02-01　刹那・F・セイエイ

純粋種のイノベイターへと進化したダブルオークアンタのパイロット。ダブルオークアンタを用いて、地球外変異性金属体ELSとの対話を試みる。

武装／構造　対話へ導くための装備

ダブルオークアンタは、武装面においても最先端の技術が用いられている。中でもGNソードVは、ソードモードとライフルモードを備えるほか、遠隔操作兵器GNソードビットと連結できるなど、多様な状況に対応することができた。一方、内部構造面では、コクピットにヴェーダのターミナルを搭載。ヴェーダと一体化したティエリアを投影する端末も設置され、ヴェーダとのリンク機能を強化している。

GNシールドに設置されたGNドライヴは、木星圏で製造されたものである。本機用のチューニングが施されており、ツインドライヴの安定に繋がった。

新たに開発されたGNソードビットは、攻撃のみならず、GNフィールドを形成する防御ユニットとしても機能している。

■ GNソードV

ダブルオーに装備されたGNソードⅢの発展系で、攻撃力が強化されている。上図はソードモードであり、マニピュレーターでグリップを保持しつつ、腕部関節部にマウントする機構であった。

● ライフルモード

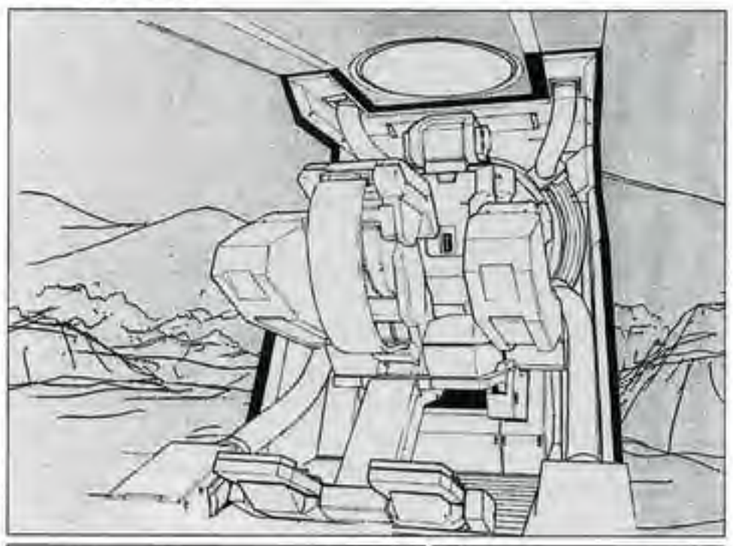
ブレード部が回転することでライフルモードへと移行。優れた連射性能を持つほか、MSを破壊するのに充分な威力を有していた。

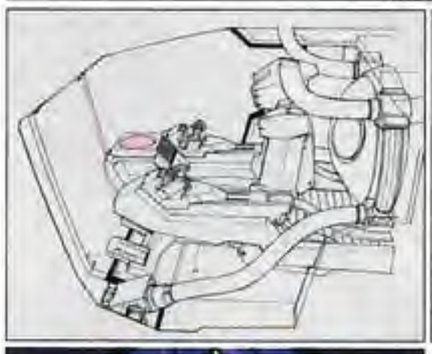
● ライフルモード+GNソードビット

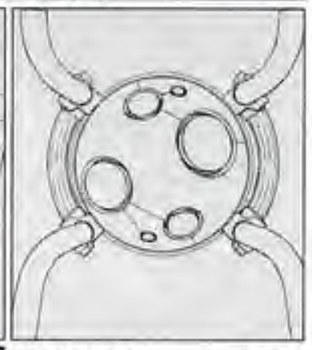
GNソードVに、GNソードビットを連結した状態。ライフルモード時はバスターライフル、ソードモード時はバスターソードと呼ばれ、ライザーソードも使用できる。

ライフルモード時のGNソードVを構えたダブルオークアンタ。腕部にマウントしているため取り回しが良く、その攻撃範囲も広くなっている。

■ コクピット

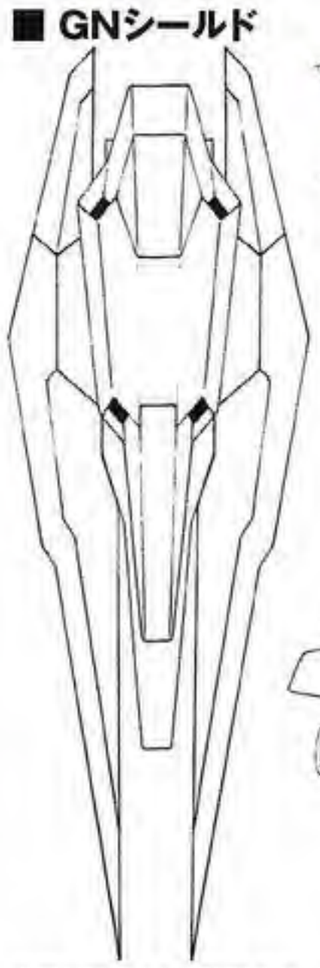






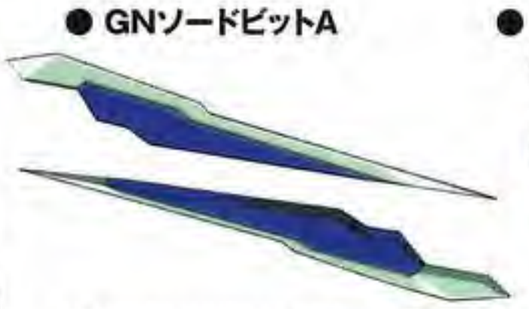
操縦機構自体は、これまでのガンダムを踏襲したものになっている。だが、ヴェーダのターミナル（上）を設置してリンクを強化しているほか、ヴェーダと一体化したティエリア用の端末（左上着彩部）も備えていた。

■ GNシールド

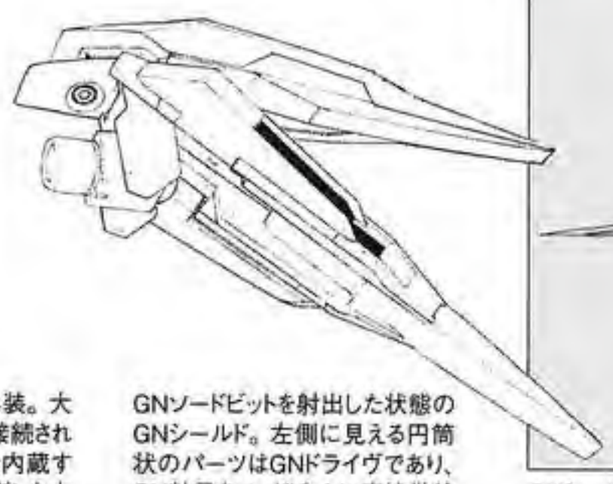


左肩に装備された防御兵装。大小3種のGNソードビットが接続されているほか、GNドライヴを内蔵する。また、牽制用のビームガンも本体に設置されていた。

● GNソードビットA



GNシールドに2基設置された、大型のビット。ソードビットという名の通り、装備されたブレードによる打突で敵機装甲にダメージを与えた。

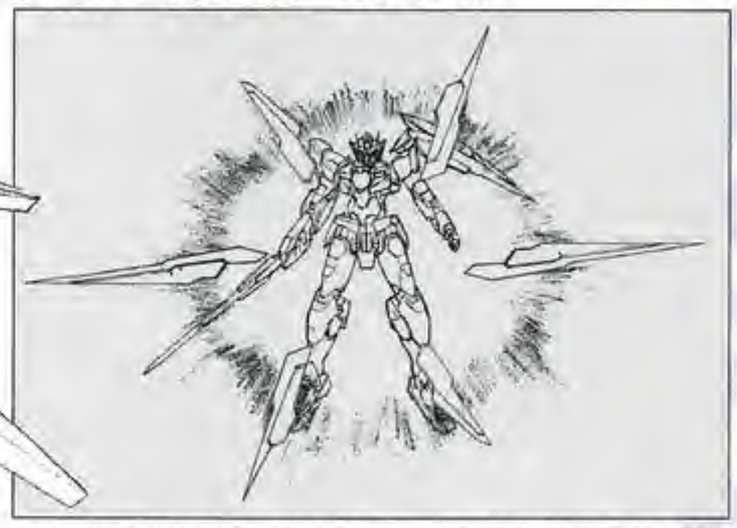


GNソードビットを射出した状態のGNシールド。左側に見える円筒状のパーツはGNドライヴであり、GN粒子をソードビットに直接供給できる。

● GNソードビットB／GNソードビットC

左側がGNソードビットB、右側がGNソードビットC。GNソードビットBは、GNソードビットAと連結することで大型ソードとなり、携行兵装としても使用できた。

● GNソードビット（シールドモード）



GNシールドから射出された計6基のGNソードビットを放射状に展開することで、機体周辺をカバーするGNフィールドを形成できた。

特殊機構　対話に向けた「クアンタムシステム」

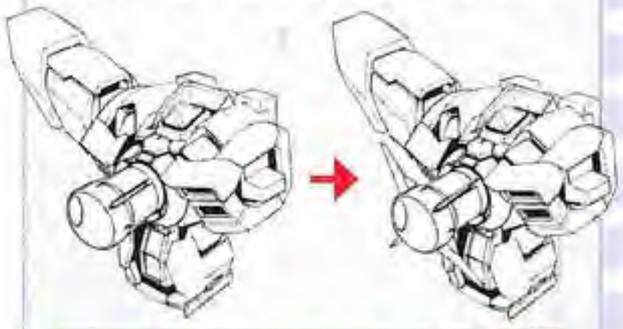
対話を目指す本機に設置されたのが、トランザムバーストを超える密度でGN粒子を展開できる「クアンタムシステム」である。このシステムを発動した「クアンタムバースト」時には、ツインドライヴを直列に接続するほか、各部のGNコンデンサーを解放した状態となった。この状態ではMSとしての機能を失うが、長距離を瞬時に移動する「量子ジャンプ」が可能となり、西暦2314年の戦いでも、ELSの母星へと一気に到達している。

イノベイターに進化した刹那による対話をサポートするシステム。高濃度量子領域で意識を共有することで、人類以外との対話を目指した。

ELS母星へと接触し、己の身を投げ打って刹那は対話を試みた。その結果、ELSと分かり合うことに成功し、戦乱は終結したのである。

クアンタムバースト発動時。GNドライヴからはクラビカルアンテナが展開。さらに各部のGNコンデンサーもポップアップしている。

■ 胸部ブロック（GNドライヴ）



胸部ブロックのGNドライヴに接続する形で、左肩部のGNドライヴが移動。さらに先端からクラビカルアンテナが展開する構造となっていた。

©創通・サンライズ・MBS

究極の合体変形ガンダム

MSA-0011

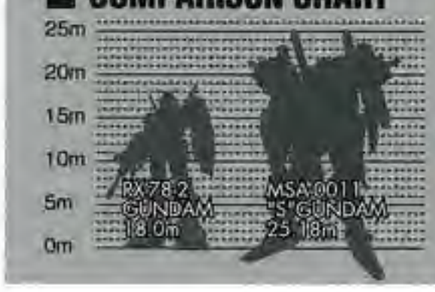
Sガンダム

"S"GUNDAM

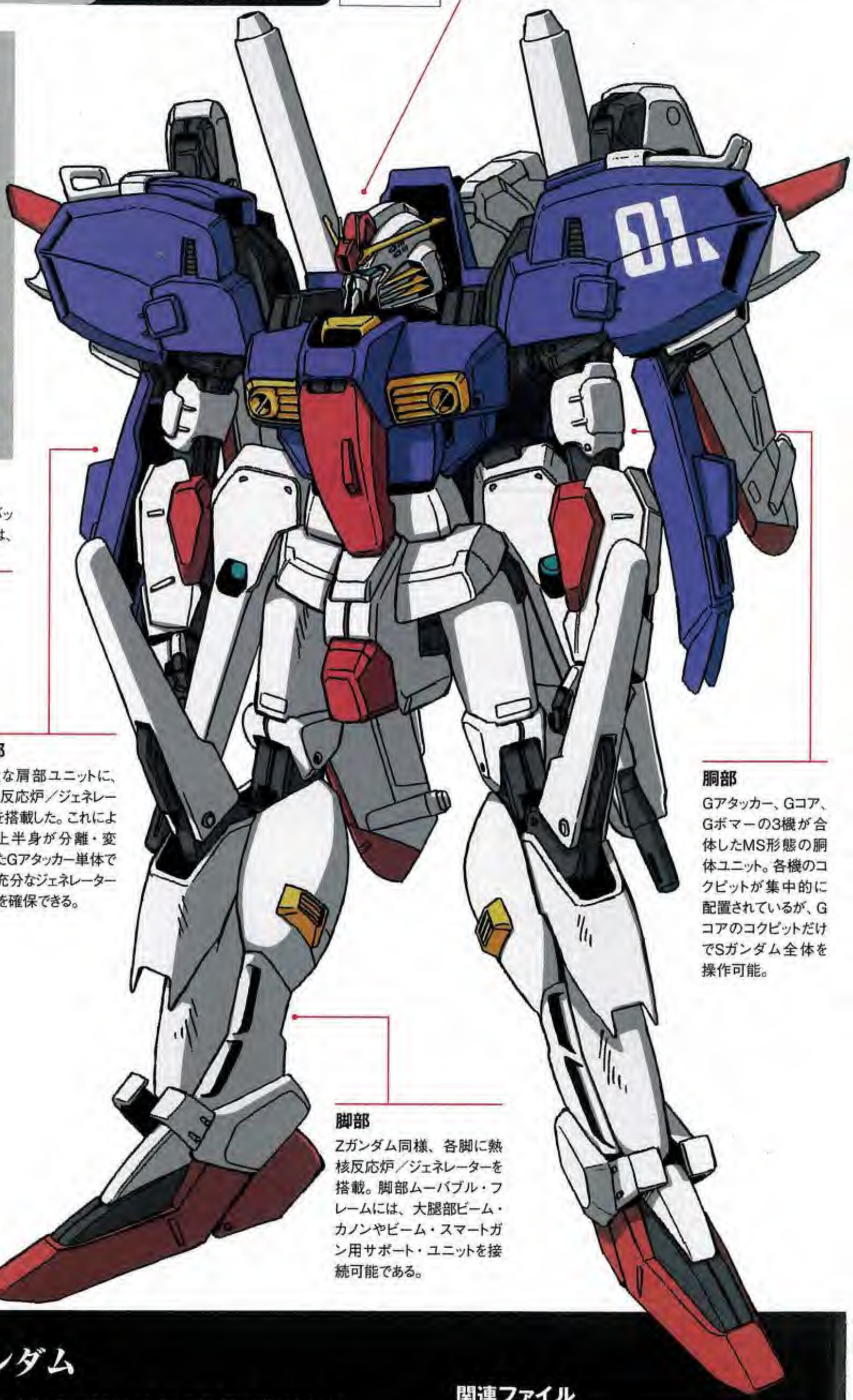
■ SPEC

全高	25.18m（頭頂高 21.73m）
重量	38.40t（全備重量 73.00t）
ジェネレーター出力	7,180kW
スラスター推力	143,600kg
装甲材質	ガンダリウムYコンポジット
武装	ビーム・サーベル×2／頭部インコム／テール・スタビレーター・60mmバルカン砲×4／ビーム・スマートガン 他
所属	地球連邦軍
搭乗者	リョウ・ルーツ

■ COMPARISON CHART



■ COLOR



頭部
準サイコミュ式の有線ビーム砲「インコム」を搭載。センサー系は「ALICE」に対応した高性能型である。熱源となるものが多いため、強力かつ高効率な冷却機構を備えている。

バックパック
主推進器、火器、AMBACシステムが一体化した複合バックパック。背部ビーム・カノンやテール・スタビレーターには、AE系ガンダムのノウハウが活かされているようだ。

腕部
巨大な肩部ユニットに、熱核反応炉／ジェネレーターを搭載した。これにより、上半身が分離・変形したGアタッカー単体でも、充分なジェネレーター出力を確保できる。

胴部
Gアタッカー、Gコア、Gボマーの3機が合体したMS形態の胴体ユニット。各機のコクピットが集中的に配置されているが、Gコアのコクピットだけでも Sガンダム全体を操作可能。

脚部
Zガンダム同様、各脚に熱核反応炉／ジェネレーターを搭載。脚部ムーバブル・フレームには、大腿部ビーム・カノンやビーム・スマートガン用サポート・ユニットを接続可能である。

7番目にして「究極」のAE製ガンダム

アナハイム・エレクトロニクス社（AE）が"究極のガンダム"を目指して開発したMSが、MSA-0011 Sガンダムである。スペリオル・ガンダムと通称される。「Z計画」における7番目の機体で、開発時のコードネームは"*l*（イオタ）ガンダム"だった。

同時期に開発されたMSZ-010 ZZガンダム同様、3つの航宙・航空機から成る合体変形機で、第四世代MSに分類される。本機の特徴としては、徹底したジェネレーターの分散配置、ユニット換装を前提とした着脱式ムーバブル・フレーム構造、準サイコミュ兵器「インコム」、そして「ALICE」の採用が挙げられる。

ALICE（Advanced Logistic & Inconsequence Cognizing Equipment＝発展型論理・非論理認識装置）は、MSの無人化を目的とする一種のAIである。Sガンダムでは、複雑化した兵装システムや追加オプションを管制し、パイロットを支援するが、真の目的は自律戦闘システムとして完成させることだったと言われる。

地球連邦軍のα任務部隊に配備されたSガンダムは、ALICEの開発者ルーツ女史の息子リョウ・ルーツ少尉に任され、ニューディサイズ鎮圧で活躍した。

関連ファイル

MSZ-006 Zガンダム	Z-01-04
MSA-0011［Ext］Ex-Sガンダム	AGS-01-59
Z計画	Z-03-18
準サイコミュ	Z-03-26
第四世代MS	ZZ-03-10

FILE PREVIEW

ZZ-03-10 第四世代MS

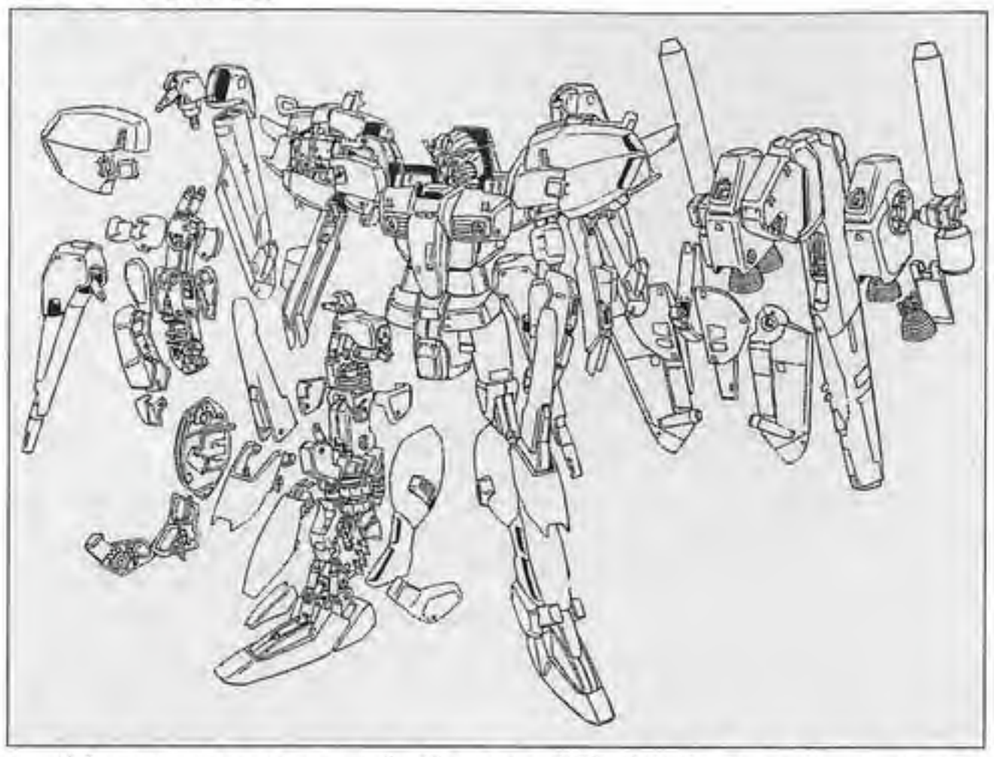
第二世代MSの条件を満たしたうえ、ジェネレーター直結式大出力メガ粒子砲などを装備した機体群の総称。そのどれもが高い性能を誇り、戦局に影響を与えた。

機体構造　「Z計画」の集大成的機体と新技術

AEの可変MS開発プロジェクト「Z計画」の中で誕生したSガンダムには、計画で培われたり提案されたりした技術が惜しみなく導入されている。Zガンダムが採用した分散配置型ジェネレーター、テール・スタビレーター、可変機構と強度と柔軟性を併せ持つムーバブル・フレーム、ZZガンダムでも導入された合体変形機構や強力なビーム火器群などが、代表的な導入技術として挙げられる。一方で、それまでの「Z計画」に見られない技術も採用された。拡張性を重視したムーバブル・フレーム、準サイコミュ式の有線ビーム砲「インコム」、MSの無人化を目的とする擬似人格システム「ALICE」などが該当する。これらの機構は機体構造の複雑化と高コスト化を招いたが、性能を大きく向上させた。

テール・スタビレーター、肩部ウイング・バインダー（Aパーツ主翼）、大腿部ビーム・カノン、ビーム・サーベル・ボックス・ユニットなど四肢以外の可動肢を多数備える。

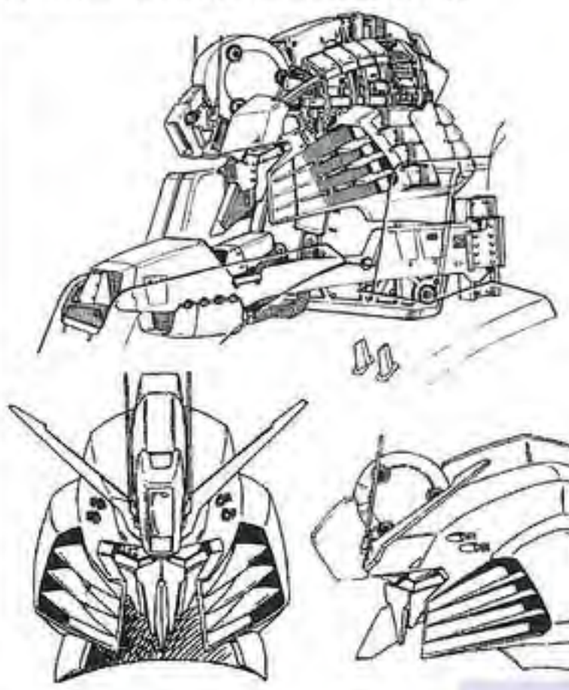
■ パーツ展開図



ムーバブル・フレームレベルでユニット化が進んでおり、着脱や換装が容易。ジェネレーターは両肩と両脚（腰）に搭載されており、2基が失われても戦闘可能。損傷部位はパージすることもできる。

■ 頭部

Zガンダム用を思わせる頭部。インコム、4門の60mmバルカン砲、サブプロセッサーフレームなど熱源になる装備が多いため、冷却機構が充実している。前後に長い形状は、冷却機構強化の結果と考えられる。

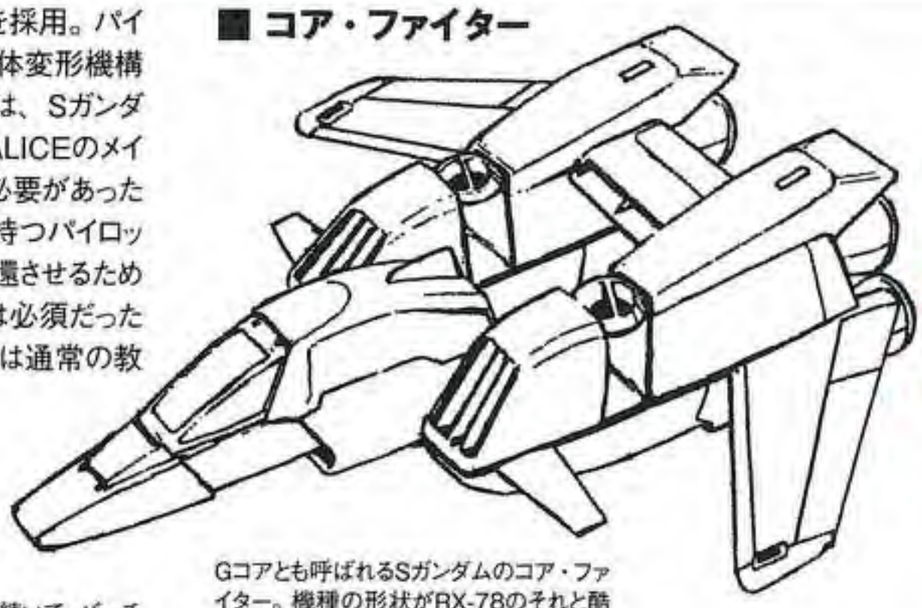


コア・ブロック・システム　生存性に優れる脱出機構

ZZガンダム同様、コア・ブロック・システムを採用。パイロットの脱出とデータ回収を目的とするほか、合体変形機構の一部も構成している。充実した脱出システムは、Sガンダム開発当初からの要求性能のひとつだった。ALICEのメイン・コンピューター・システムを無傷で回収する必要があったためである。ALICEの「成長」に必要な資質を持つパイロット（"チェシャ猫"と呼ばれる不条理な存在）を生還させるためにも、生存性に優れるコア・ブロック・システムは必須だったのだろう。コア・ブロックが脱出すると、ALICEは通常の教育型コンピューターとして機能する。

ZZガンダムに続いて、バーチカル（垂直）・スタイルのコア・ブロック・システムを採用。合体中は、Gコアの推進器がデッドウエイトとなるが、生存性は高い傾向にある。

■ コア・ファイター

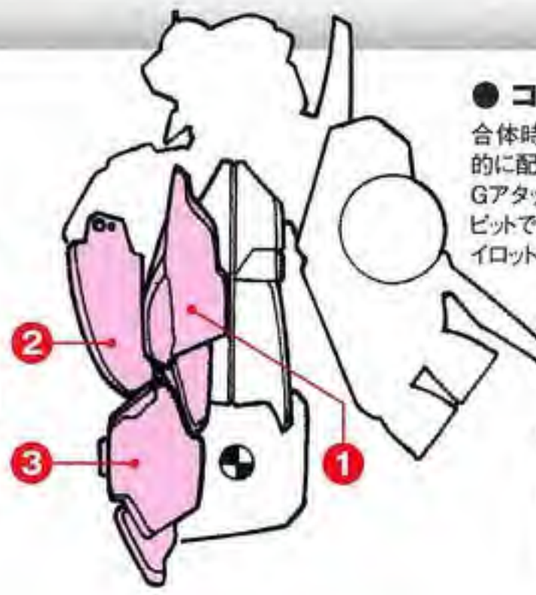


Gコアとも呼ばれるSガンダムのコア・ファイター。機種の形状がRX-78のそれと酷似していることがわかる。

全長：7.92m／翼巾：7.63m／
全部重量：12.1t／スラスター推力：16512kg／
武装：ミサイルランチャー×4

● コクピットの配置

合体時、各機のコクピットは集中的に配置される。❶がGコア、❷がGアタッカー、❸がGボマーのコクピットである。通常、Gコアにのみパイロットが搭乗する。



● 収納状態

右図のような垂直状態で胴体内に収納される。Gアタッカー（Aパーツ）のコクピットは、本機で最も重厚な装甲を持ち、Gコア（Cパーツ）の生存性向上にも役立っている。

武　装　大出力のビーム兵器群と準サイコミュ兵器

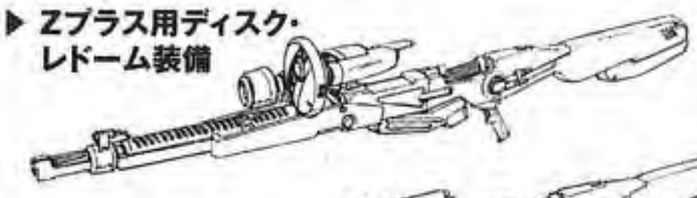
第四世代MSに分類されるだけあって、Sガンダムは強力な兵装を多数備えている。標準装備でも、背部ビーム・カノン2門（出力12MW×2）、大腿部ビーム・カノン2門（出力14MW×2）、ビーム・サーベル2基（出力0.9MW×2）、頭部インコム（出力3.8MW）、頭部60mmバルカン砲4門を搭載する。オプションとして、大腿部ビーム・カノンと換装されるビーム・スマートガン（出力56MW）、60mmバルカン砲を4門搭載するタイプのテール・スタビレーターが用意された。ZZガンダムのハイ・メガ・キャノンのような広域攻撃兵器こそ持たないが、その火力は極めて高かった。

U.C.0080年代後期、ジェネレーターと兵装の大出力化が進み、固定式ビーム火器を持つ機体が増加。Sガンダムはその到達点にある機体で、兵装も突出して強力だ。

準サイコミュ兵器のインコムは、オーガスタ研究所から流出した技術。ファンネルほど複雑な動きは不可能で、搭載数も少ないものの、非ニュータイプでも使用可能。

■ ビーム・スマートガン

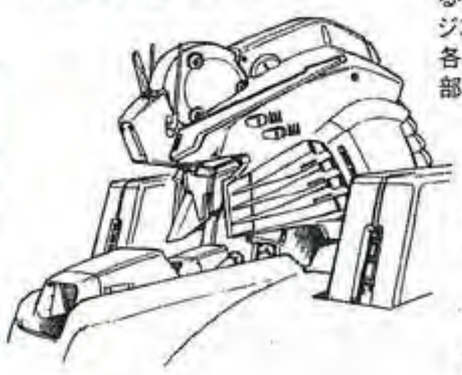
▶ Zプラス用ディスク・レドーム装備



▶ 連射装備仕様

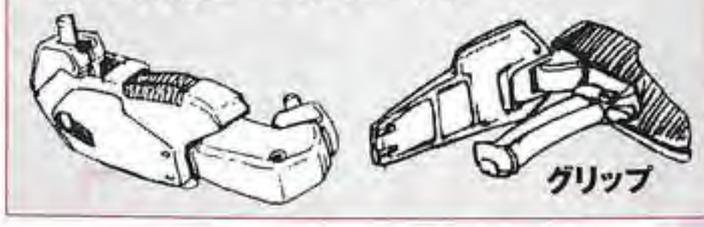
火力、命中精度、射程に優れる大型ビーム・ライフルの一種。エネルギーCAP技術を用いている。大腿部ビーム・カノンを換装した、両腰のエネルギー供給サポート・ユニットを介してMS側と接続される。

■ 頭部インコム



準サイコミュを介して遠隔操作される有線式ビーム砲。疑似オールレンジ攻撃が可能。3基のビーム砲は各1回発射可能で、再チャージは頭部に巻き戻して行う。

マウント用ムーバブル・フレーム



©創通・サンライズ

GNMA-Y0002V ガデラーザ
GADELAZA

純粋種イノベイター用の巨大MA

■ SPEC

全長	302.0m
重量	――
ジェネレーター出力	――
スラスター推力	――
装甲材質	Eカーボン
武装	GNファング（大型×14／小型×140）×154／GNブラスター／GNミサイル×32 他
所属	地球連邦軍
搭乗者	デカルト・シャーマン

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

動力
疑似太陽炉であるGNドライヴ[T]（タオ）を7基も搭載。本体に1基備えるほか、左右のコーン部分には3基が直列状態で配されている。推進部は、上下と多少ながら左右にも可動する。

下部
起動前の疑似太陽炉は収縮状態に置かれるが、発進時に伸長・展開する。その下部にはコーンを守るように装甲を配した。中央に備わるのはGNファングを搭載したコンテナである。

ウイング部
左右のウイング部には隠し腕が内蔵され、下部にはGNミサイルも持つ。この部位は、戦闘モードに変形した際に腕部的な使用が可能。そのため、巨体でありながら格闘も可能なMAの利点は健在である。

可変機構
本機は巡航形態（図）のほか、戦闘時は武装の使用に適した形態へと変形する可変機構を採用。状況に応じて2種の形態を使い分けることで、本機の性能を最大限に発揮できるようになっている。

イノベイドの技術を転用した純粋種イノベイター専用機

純粋種のイノベイターとしてデカルト・シャーマン大尉の存在を確認した地球連邦軍は、彼を確保して研究すると同時に、イノベイター専用の兵器開発に着手するのだった。そうして西暦2314年に完成したイノベイター専用MAこそが、GNMA-Y0002V ガデラーザである。

イノベイターの能力を純粋に戦闘力として扱った結果、連邦軍は脳量子波制御技術を用いた武装――GNファングに着目。兵器の母体はMSではなく、多くの武装を搭載・運用可能なMAとして結実した。また、イノベイターの兵器転用においては未だ手探り状態であることから、今後のテストケースとして各種の実験的な装備が導入されている。これにより、以前の兵器系列からは逸脱した外見や装備を持つに至った。対話のために開発された刹那・F・セイエイのGNT-0000 ダブルオークアンタとは、まさしく対極を成す機体コンセプトだと言えよう。

完成した本機の戦闘能力は、MS5個小隊と亘り合うポテンシャルを持つ。事実、MS部隊では破壊し切れなかった木星探査船を単体で粉砕しており、ELS襲来の際は先陣を切っている。しかし圧倒的な数の差は覆せず、中型タイプのELSに捕捉された末、取り込まれてしまう。

関連ファイル

GNZ-003 ガデッサ／GNZ-005 ガラッゾ	00-01-48
GNMA-0001V レグナント	00-01-51
デカルト・シャーマン	00-02-17
ELS襲来	00-03-16
純粋種イノベイター用機動兵器	00-03-30
イノベイター	00-03-46

FILE PREVIEW
00-02-17 デカルト・シャーマン

純粋種として覚醒したイノベイター。地球連邦軍に所属する大尉で、モルモットのように扱われている。従来の人間を、自分よりも劣った存在だと見下していた。

機体構造　イノベイドの技術を採り入れた巨大MAの系譜

複数の疑似太陽炉を搭載した大型MAの開発は、遡ることGNMA-XCVII アルヴァトーレから始まったと言える。元より大型MAにはイノベイド勢力が深く関わっており、その流れを汲むガデラーザは、GNZ-003 ガデッサなどイノベイド用MSである「GNZ」シリーズの技術も採り入れられた。さらに本機がイノベイター用の機体として設計されていることから、脳量子波系のノウハウが導入されている。また、GNMA-0001V レグナントのように可変機構を有し、戦闘時は全武装を使用できる形態に移行する。

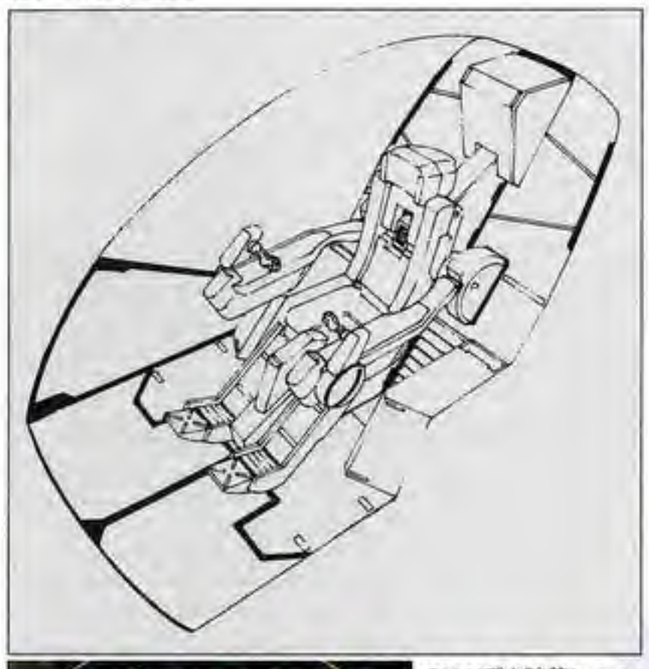
独特の形状を有す頭部。戦闘モードでは多数の武装の同時制御等が必要となるため、より精度の高い情報処理機能を持つと思われる。

移動に適した非人型形態が基本。航宙・航空機と異なるのは対MS格闘戦能力を備える点であり、本機は変形によって対応する。

■ 頭部／胸部

通常時の巡航モードの際は、機体内部に収納されている頭部と胸部。戦闘モードでGNブラスターの砲身部分が下方にスライドし、上半身が顕わとなる。頭部はセンサーを兼ねており、三連式のカメラアイを左右に持つ。

■ コクピット

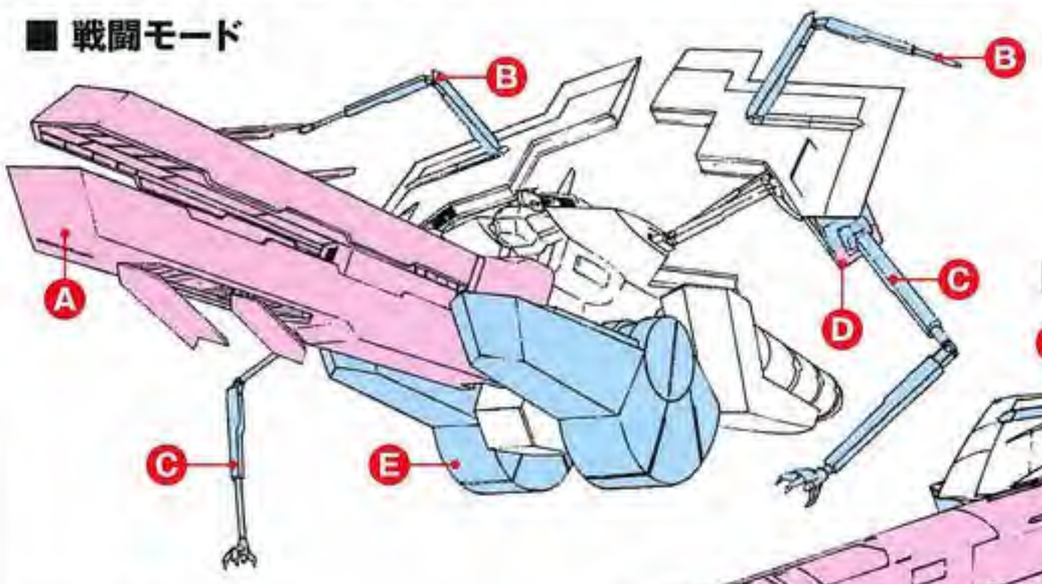


GN-X系を踏襲しつつ、操縦系には脳量子波コントロールシステムを導入。脳量子遮断装置も組み込まれている。パイロットの周囲等には、ホロモニターによる情報を投影可能。

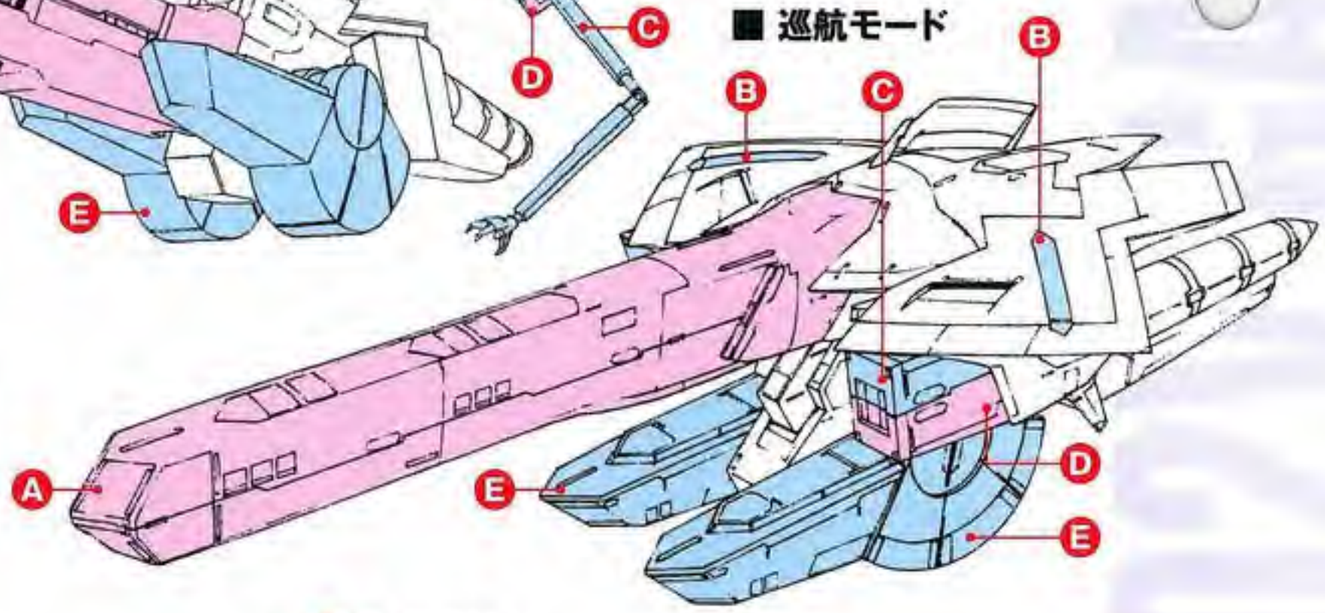
武　装　脳量子波の使用を前提とした高火力の武装群

単機における最大限の攻撃力を追求した結果が、大出力によるサイズの巨大化＝大型MAであった。これは開発の先鞭をつけたイノベイド勢力が少数であり、限りある人員で大多数を相手取るための兵器としてMAが適していたためである。本機は大出力のビーム兵器などを内蔵し、MSとは一線を画す火力を獲得した。中でも遠隔操作兵器であるGNファングを多数搭載。合計154基にも上る端末の制御にはイノベイターの能力が必須であり、人類進化後の兵器の試金石とも言える武装を与えられていた。

■ 戦闘モード



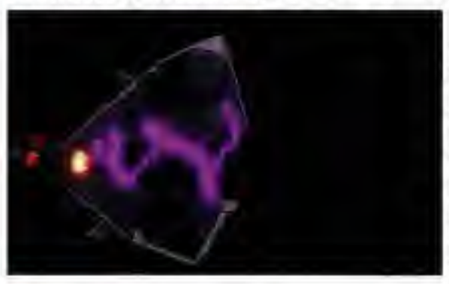
■ 巡航モード



航行性能を重視した巡航モードを基本形態とし、交戦時には変形することで全武装を使用可能な戦闘モードに移行。ウイング部が展開することで、隠し腕が自在に使えるようになる。

A GNブラスター

GN粒子ビーム砲。本機が装備する最大火力。発射後は砲身の上下に備わるパネルが展開、冷却のためのガスを放出して排熱を行う。本機に備わった大出力の賜物か、ある程度の連続使用は可能である。



ELSに浸食されたヴォルガ級航宙巡洋艦を一撃で撃破するどころか、ナイル級大型航宙艦とヴォルガ級を同時に撃ち抜く威力を見せた。ただし、移動しながらの発射はできない。

B C 隠し腕

ウイング部の表面と、下部に設けたGNミサイルコンテナに収納されている。先端部はGNビーム砲となっており、GNビームサーベルとしても機能。MSとの接近戦も想定された武装である。基本的には戦闘モードで使用。

● 上部アーム

左右のウイング部に備わり、使用時にポップアップする。下部のものと異なる先端はGNビーム砲／GNビームサーベルの機能だけであり、マニピュレーターは持たない。

● 下部アーム

GNミサイルコンテナの上部側に装備。先端には三指タイプのマニピュレーターを持つ。伸縮式でなおかつ関節の役目を果たす部位も多く設けられ、可動範囲は非常に広い。ウイング部の可動域と併せ広範囲をカバーできる。

D GNミサイル

ウイング下部に装備されたGNミサイルコンテナに、16基ずつのミサイルキャリアーを搭載。対艦・対MSミサイルを混載可能である。

● 小型GNミサイル

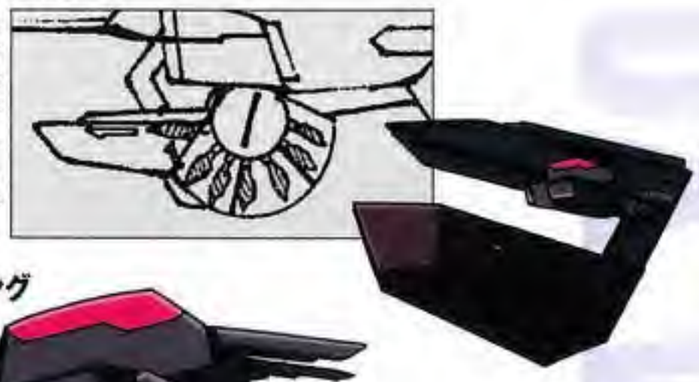
ミサイルキャリアー内には8発の小型GNミサイルを内蔵。前方にセンサー、後方にスラスターを設けており、左右で合計32発搭載している。

E GNファング

下部の専用コンテナに搭載。疑似太陽炉を搭載した親機はGNファングキャリアーとしても機能。これにより従来の使用可能範囲を超えた、遠距離でのGNファング運用を実現した。

● GNファングコンテナ

右は内部透過図。大型GNファングを左右に7基ずつ（コンテナ内に6基、カタパルトに1基）搭載。内部はドラム式で、射出口が上下に展開。天井側のカタパルトから順次射出する。



● 大型GNファング

疑似太陽炉搭載の親機。前部にGN粒子ビーム発射口を持つ。上図はGN粒子ビームをカッター状に展開した形態。下図の側面が小型GNファングの射出口。

● 小型GNファング

大型1基に対し10基搭載の子機。GNビームのほかGN粒子ビームを楔状に展開したGNスピアとしても使用できる。

©創通・サンライズ・MBS

JUPITRIS

ジュピトリス

ジュピトリス級惑星間ヘリウム3輸送艦

地球圏のエネルギー供給を支えた「木星船団」の中核をなす大型艦

ジュピトリスを中心にして編制された木星船団。地球圏のエネルギーを支えるだけに、その船団は特定公団（木星船団公社）の管轄下に置かれたとされる。

関連ファイル

PMX-000 メッサーラ	Z-01-20
PMX-001 バラス・アテネ	Z-01-21
PMX-002 ボリノーク・サマーン	Z-01-22
PMX-003 ジ・O	Z-01-23
パプテマス・シロッコ	Z-02-25
グリプス戦役期の世界	Z-03-29
木星船団	Z-03-37

FILE PREVIEW

Z-02-25 パプテマス・シロッコ

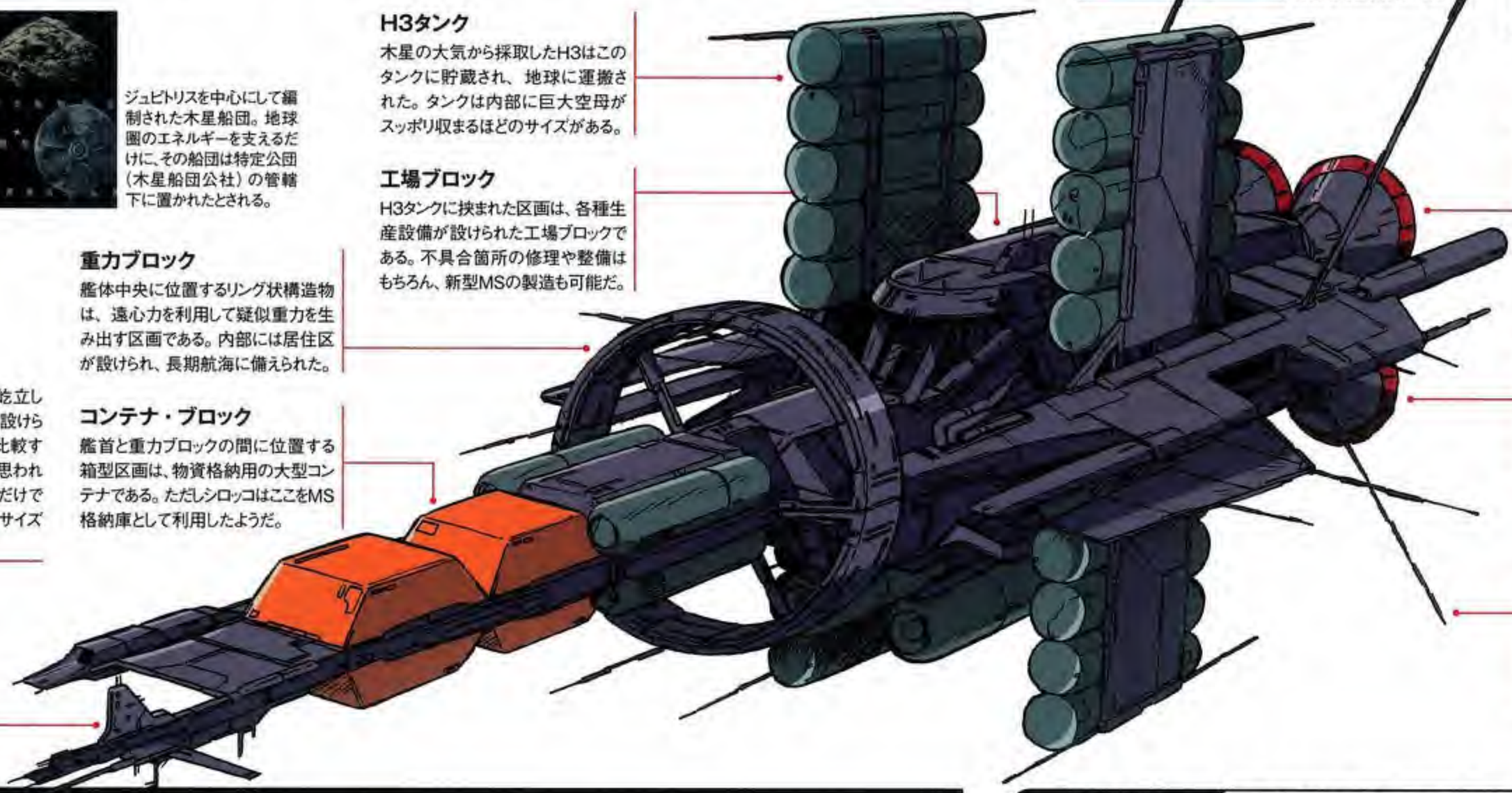
木星船団を率い、ティターンズへの協力姿勢を示す男。従順な素振りを示すが、内心では世界の変革と支配を望んでおり、圧倒的なカリスマ性を発揮して支持者を拡大している。

■ SPEC

全長	2,000m
武装	対空メガ粒子砲 多数
所属	木星船団公団
搭載MS	メッサーラ／バラス・アテネ／ボリノーク・サマーン／ジ・O
艦長	パプテマス・シロッコ

■ COMPARISON CHART

■ COLOR



H3タンク

木星の大気から採取したH3はこのタンクに貯蔵され、地球に運搬された。タンクは内部に巨大空母がスッポリ収まるほどのサイズがある。

工場ブロック

H3タンクに挟まれた区画は、各種生産設備が設けられた工場ブロックである。不具合箇所の修理や整備はもちろん、新型MSの製造も可能だ。

重力ブロック

艦体中央に位置するリング状構造物は、遠心力を利用して疑似重力を生み出す区画である。内部には居住区が設けられ、長期航海に備えられた。

艦橋

艦橋は艦首左舷に屹立している塔状構造物に設けられている。艦全体と比較すると微々たる大きさに思われるが、実際にはこれだけでも巡洋艦に匹敵するサイズを有している。

コンテナ・ブロック

艦首と重力ブロックの間に位置する箱型区画は、物資格納用の大型コンテナである。ただしシロッコはここをMS格納庫として利用したようだ。

核バルス・エンジン

巨体を動かすのに必要な加速力を得るには通常の熱核融合エンジンは向いておらず、核爆発の衝撃を用いる核バルス・エンジンが搭載されている。

宇宙船用ドック

艦両舷に位置するバルジは宇宙船用ドックとしての機能を果たす。バルジ中央に見える開口部に艦首を固定し、航行しながら必要な整備を受けるのだ。

通信アンテナ

艦体各部から突き出したパーツはミリ波～メートル波帯域をカバーする通信アンテナ。僚艦との通信だけでなく、地球との交信に必須の装備である。

地球～木星間を往復する能力を発揮した巨艦

化石燃料が枯渇しつつある宇宙世紀において、必要な電力は熱核融合発電によって賄われている。その際の燃料となる物資がH3（ヘリウム3）なのだが、H3は全ヘリウム中に0.015%しか含まれていない。そのため海水から抽出するには効率が悪く、さらに抽出作業が地球環境に悪影響をもたらす可能性も示唆された。とはいえ、これら問題点を除けば、H3は熱核融合発電の理想的な燃料であることに違いなく、人類はH3の供給源を地球外に求めた。それが太陽系最大のガス惑星、木星である。地球の約11倍ものサイズと318倍もの質量を誇り、大気の主成分が水素とヘリウムの混合気体から成る木星は、こうして地球圏に安定的にH3を供給する鉱山と見なされたのだった。こうなれば、あと必要なのはH3の輸送手段である。ジュピトリス級惑星間ヘリウム3輸送艦は、地球～木星間の長大な距離を渡る航行能力と一度に膨大な量のH3を運ぶ運搬能力を兼ね備えた巨大艦艇であり、H3の輸送手段に最適な存在だった。事実、船団（木星船団と呼ばれる）の旗艦に抜擢されたジュピトリス級は、木星から大量のH3を持ち帰り、地球圏のエネルギー事情を安定させたのである。

艦載機　PMXシリーズの母艦として機能

ジュピトリスの艦長を務めるシロッコはティターンズへの協力を表明すると同時に、艦内工場でハンドメイドMSの建造を開始。既存機とは一線を画する巨体と武装を有するPMXシリーズを生み出した。そしてジュピトリスはその母艦として機能したのである。

地球圏に帰還したシロッコが初めてエゥーゴと交戦した時に搭乗した機体（メッサーラ）も、ジュピトリス内で建造されたものである。

■ PMX-001
バラス・アテネ

■ PMX-002
ボリノーク・サマーン

■ PMX-003
ジ・O

基本構造と性能　他の艦艇には見られない構造上の特徴と、そこからもたらされた性能

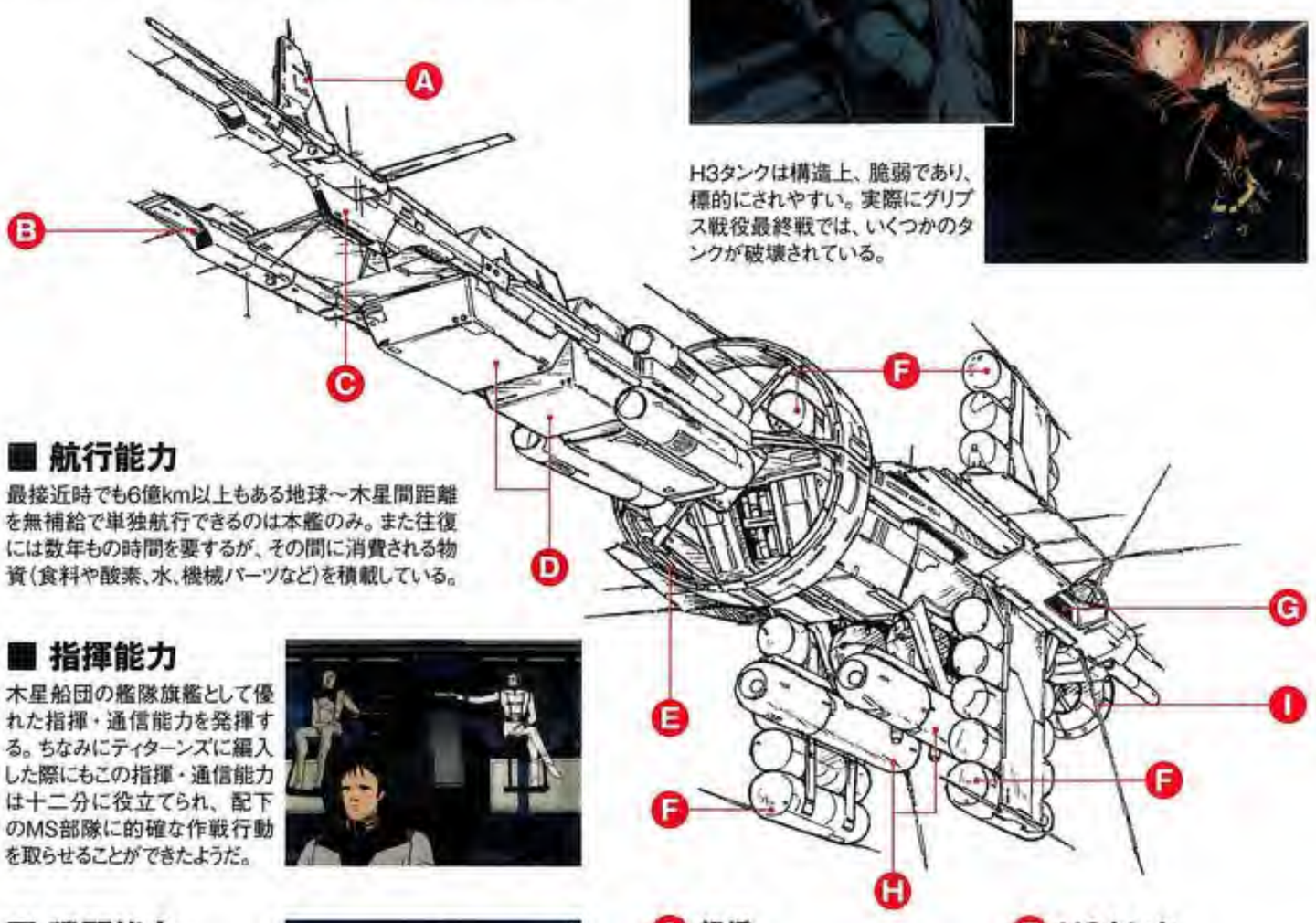
ジュピトリス級はH3の大量運搬のためだけに建造された、宇宙世紀最大規模の艦艇である。そのため同時期の宇宙艦艇とは性能面で異なり、構造も独自のものが多い。その最たるものがH3タンクであろう。地球～木星間の航行には数年間もの時間が必要であり、一度の航行でできるだけ多くのH3を運搬するには、これほどのタンクを必要としたのである（巨大なタンクは構造上の脆弱さとなるが、背に腹はかえられなかったのだろう）。また2,000mもの巨体を動かすため、推進機関には核パルス・エンジンが採用された。これは小型の燃料ペレットにレーザーを照射することで核爆発を生じさせ、その反動で艦を推進させるというものである。MSや通常艦艇に搭載された熱核ロケットよりも高効率で、高加速状態を持続しやすい核パルス・エンジンは大型隕石の移動に用いられることが多いが、この特性がジュピトリスには有効だと考えられたのだろう。ただしこの推進法は環境汚染につながる可能性が高い。だからこそジュピトリス以外には核パルス・エンジンは搭載されず、本艦独自の推進機関となったのだろう。

後方からジュピトリスを眺めると、核パルス・エンジンの噴射口が3基確認できる。この機関が発揮する加速性能によって、本艦は遠大な距離の航行が可能になったのである。

ジュピトリスの甲板上を飛行するZガンダム。18mを超える機体も本艦と比較すると玩具のように見える。

■ 艦体構造

基本的には輸送船であり、内部スペースの多くがペイロードで占められている。独特な外観も運搬効率と長距離航行を考慮してのものと思われる。



積み重なるように配されたH3タンク。木星から採取されたH3は、地球圏に運搬後、核融合機関の燃料として利用される。

H3タンクは構造上、脆弱であり、標的にされやすい。実際にグリプス戦役最終戦では、いくつかのタンクが破壊されている。

■ 航行能力

最接近時でも6億km以上もある地球～木星間距離を無補給で単独航行できるのは本艦のみ。また往復には数年もの時間を要するが、その間に消費される物資（食料や酸素、水、機械パーツなど）を積載している。

■ 指揮能力

木星船団の艦隊旗艦として優れた指揮・通信能力を発揮する。ちなみにティターンズに編入した際にもこの指揮・通信能力は十二分に役立てられ、配下のMS部隊に的確な作戦行動を取らせることができたようだ。

■ 戦闘能力

対艦戦闘で用いられる艦砲の類は一切装備しておらず、対空砲座（本来は接近する小惑星や岩塊を撃破するための装備）が設けられているのみ。そのため戦闘は搭載したMS部隊に頼ることがほとんどである。

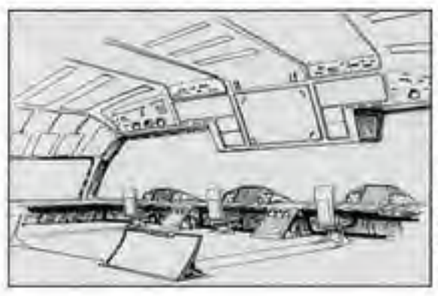
- A 艦橋
- B シャトル用デッキ
- C 第2艦橋
- D コンテナ・ブロック
- E 重力ブロック
- F H3タンク
- G 宇宙船用ドック
- H プロペラント・タンク
- I 核パルス・エンジン

艦　橋　戦闘艦を上回る指揮能力を発揮した艦橋設備

数隻のH3採掘艦から構成される「木星船団」の旗艦であるジュピトリス級だけに、配下の艦隊を指揮・采配する能力が必要とされた。だからこそ本艦の艦橋設備は極めて大規模であり、連邦軍の第一級戦艦を凌駕するほどだった。グリプス戦役末期、シロッコが独自に戦闘行動を実施できたのは、この指揮能力の高さが大きかったと言えよう。

同時代に建造された艦艇と比較して、ジュピトリスの艦橋は格段に広く、各シートもゆとりを持って設置されている。巨大艦艇ならではの仕様だ。

■ 艦橋前部



ブリッジ前部には巨大な舷窓が設けられ、広い視界を確保している。舷窓の下に位置しているシートは操舵士をはじめ、航法士や通信士といったオペレーターの座席である。

■ 艦橋後部

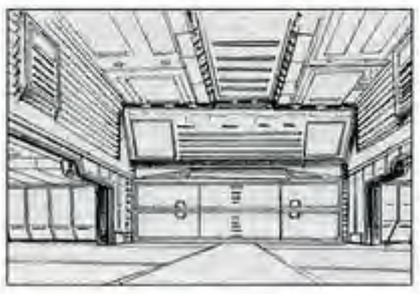
艦橋後部には艦長および副艦長用のシートが設けられ、ここから作戦指示が発令される。ちなみに艦橋の床面積はかなり余裕があり、ここからも本艦の巨大さが窺われる。

艦内設備　長期航海を見越しての専用設備とその能力

一度地球を出立したら数年間は無補給状態が続くジュピトリス級だけに、乗組員の居住施設（中でも長期航海から生じるストレスを軽減する設備）は充実していたと考えられる。また必要物資の補給もできないことから補修能力や生産ラインも完備され、航行中に予想される大概のトラブルは艦内設備だけで対処できるようになっていたようだ。

メイン・デッキ内も相当に広く、専用コミューターを使って移動する作業員もいたほど。ちなみに背後に見える機体は、整備作業中のバラス・アテネである。

■ メイン・デッキ



コンテナ・ブロック内に設けられたMS用デッキ。本来はMS空母としての機能は考慮されていないため、空いているコンテナを機体整備と発進用デッキとして流用したようである。

■ MS工場

艦体後部に位置する工場ブロックはいくつかの区画に分割されていたようで、その中のひとつがMS工場として用いられた。シロッコが設計したPMXシリーズもここで製造されている。

MORE INFO!

同型艦「ジュピトリスII」の出航

地球圏にH3を安定供給するため、ジュピトリス級は複数建造された。そのうちの1隻が第一次ネオ・ジオン戦争後に地球を出発した「ジュピトリスII」である。その際、エゥーゴのエースパイロット、ジュドー・アーシタが乗艦したと記録されている。戦乱が繰り返される地球圏を彼方から見つめ直したいとの希望があったようである。

■ MSZ-010S ZZ-GR

ジュドーがジュピトリスIIに持ち込んだMS。中破したZZガンダムのBパーツ（脚部とバックパック）を新設し、木星圏の大重力下での活動を可能としている。

月面都市から発進するジュピトリスII。グリプス戦役中は木星船団の派遣は見送られていたが、第一次ネオ・ジオン戦争後に再開が決定している。

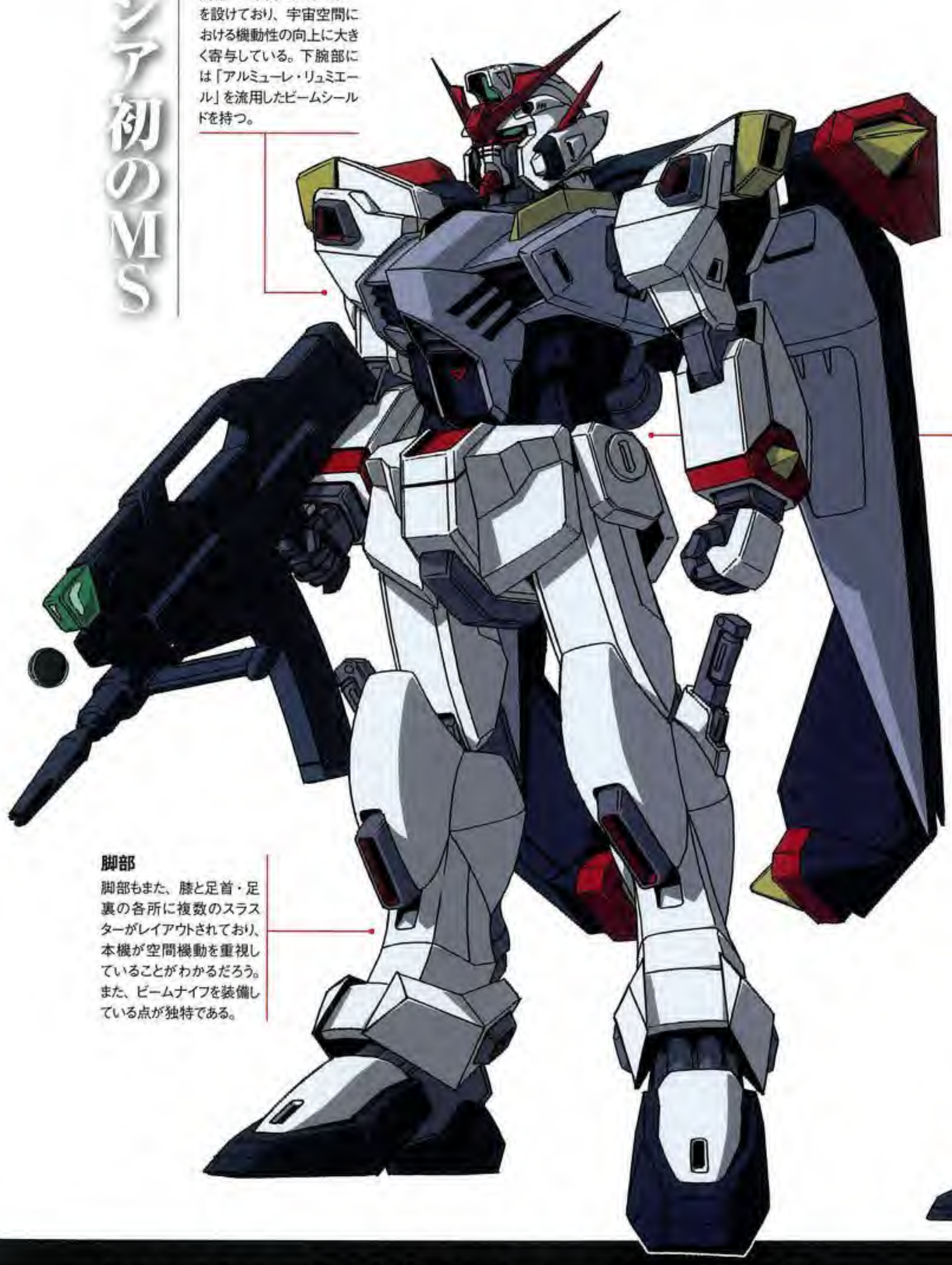
木星圏に接近したジュピトリスIIは艦の前方に傘状のバケットを展開。地球から送り出された補給物資を受け止める役目があった。

ユーラシア初のMS

CAT1-X1/3 ハイペリオン HYPERION

O.M.N.I

腕部
肩部には大小のスラスターを設けており、宇宙空間における機動性の向上に大きく寄与している。下腕部には「アルミューレ・リュミエール」を流用したビームシールドを持つ。



胴体部
コクピットは腹部に配置。外部／内部ハッチで二重に防御され、外部ハッチ側に乗降用リフトを持つ。操縦席は地球連合軍の第1期GAT-Xシリーズを模したものを用いているようだ。

背部
バックパックには主推進機関となる大型バーニアを2基備える。さらに本機の主兵装である「アルミューレ・リュミエール」発生器と、大出力ビーム砲「フォルファントリー」も搭載。

脚部
脚部もまた、膝と足首・足裏の各所に複数のスラスターがレイアウトされており、本機が空間機動を重視していることがわかるだろう。また、ビームナイフを装備している点が独特である。

■ SPEC

全高	16.90m
重量	54.70t
ジェネレーター出力	——
スラスター推力	——
装甲材質	——
武装	アルミューレ・リュミエール／フォルファントリー／ロムテクニカ RBWタイプ7001×4／ザスタバ・スティグマト RFW-99 他
所属	地球連合軍（ユーラシア連邦）
搭乗者	カナード・パルス／バルサム・アーレンド／イワン・ザンボワーズ 他

■ COMPARISON CHART

■ COLOR

「アルテミスの傘」を導入したユーラシア連邦製のMS

地球連合軍を構成する国家のひとつ、ユーラシア連邦。C.E.71において連合は一枚岩ではなく、中でも主導権を握る大西洋連邦は、他国に先んじてMS――「G」と呼ばれた第1期GAT-Xシリーズを開発。量産にまで漕ぎ着けていた。その差を挽回すべく、ユーラシア連邦が民間企業のアクタイオン・インダストリー社の協力を得て完成させたMSがCAT1-X1/3 ハイペリオンである。型式番号の「CAT」はComposition Armament Tacticalを意味し、「X」は試作、「1/3」は本機の他に2機（計3機）のプロトタイプ機の計画があることを示す。

ハイペリオンは第1期GAT-Xシリーズを参考にしつつ、武装にはユーラシア連邦が誇る光波防御帯「アルテミスの傘」の技術が盛り込まれた。このモノフェーズ光波シールド「アルミューレ・リュミエール」の搭載により、PS（フェイズシフト）装甲とは別のベクトルにおいて、MSに絶対的な防御力を与えることに成功している。その反面、エネルギーの消耗は激しいという欠点を抱えた。

宇宙要塞アルテミスに組織された特務部隊Xにおいて、カナード・パルス特務兵らにより試験運用され、のちには量産型のCAT-XG1/12 ハイペリオンGが開発された。

関連ファイル

CAT1-XG1/12 ハイペリオンG	AGS-01-192
C.E.のガンダム	SEED-03-19
ニュートロンジャマーキャンセラーと核動力	SEED-03-21
地球連合	SEED-03-34
C.E.の企業	SEED-03-39

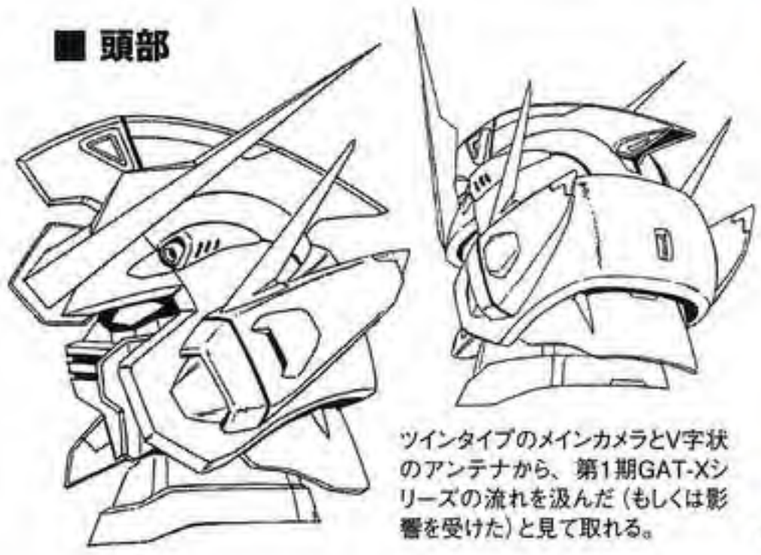
FILE PREVIEW
SEED-03-34 地球連合

崩壊した国連に代わり発足した組織。プラントに対する軍事同盟の意味合いが強く、背後にはブルーコスモスが存在する。その構成国家のひとつに、ユーラシア連邦がある。

機体構造／運用　光波防御帯の運用を前提とした3機の試作機

連合軍の「G」の影響が見られるも、機体は「アルミューレ・リュミエール」の使用を前提とした設計がなされている。3機が試作されたものの、1号機はXアストレイとの交戦で大破、2号機はユーラシア連邦から離反した1号機を追撃した際に返り討ちに遭い、1号機の予備パーツになった。3号機は傭兵部隊サーペントテールの叢雲劾に撃破されたのち、補修されて反ユーラシア連邦の活動家「ユーラシアの英雄」ことイワン・ザンボワーズの手に渡ったが、サーペントテールのイライジャ・キールに撃破されている。

■ 頭部



ツインタイプのメインカメラとV字状のアンテナから、第1期GAT-Xシリーズの流れを汲んだ（もしくは影響を受けた）と見て取れる。

■ 背面

■ 同型機

左が「アルテミスの荒鷲」ことバルサム・アーレンドの2号機（CAT1-X2/3）、下が3号機（CAT1-X3/3）。カラーリング以外は1号機と同性能である。

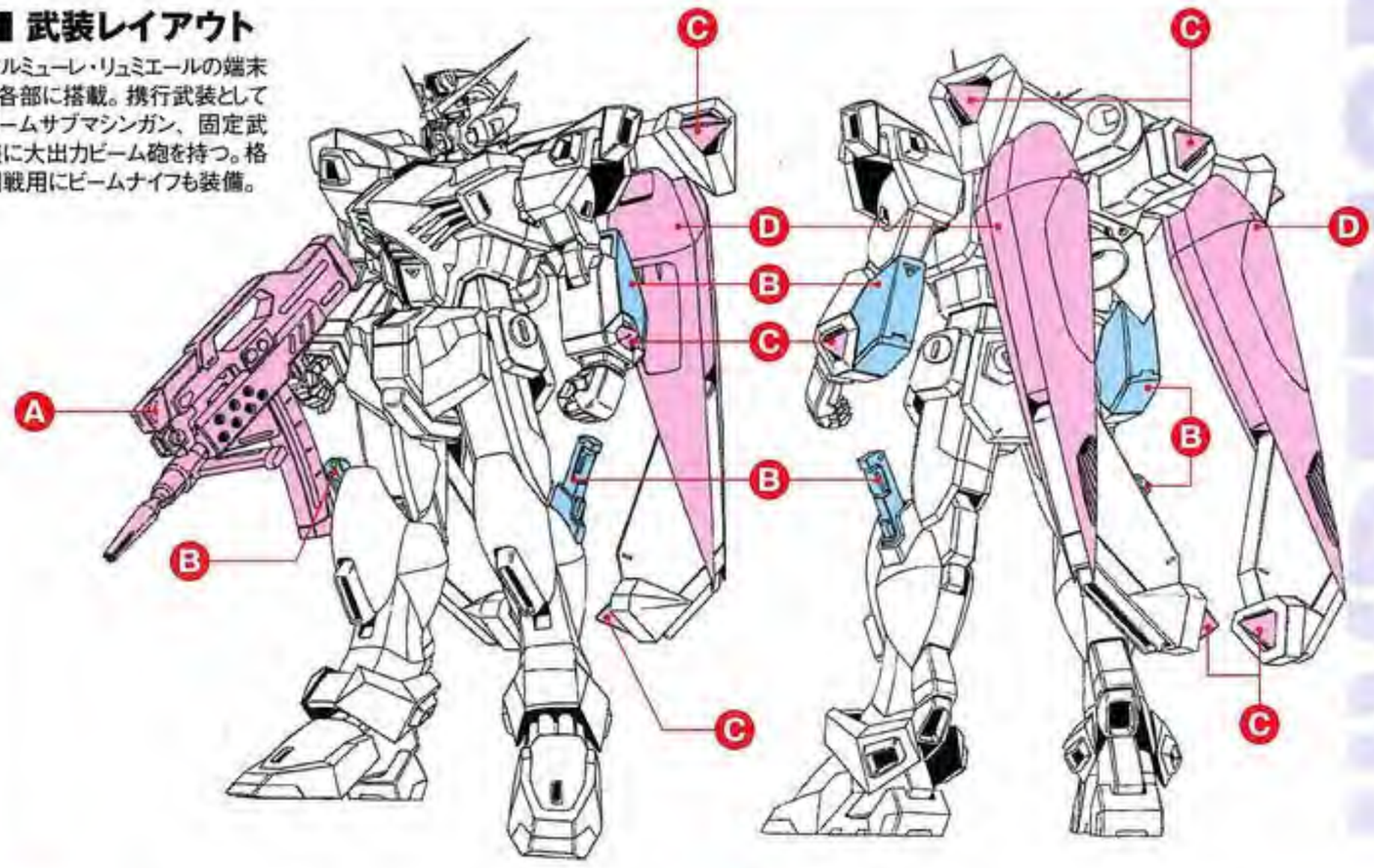
図はフォルファントリーを外した状態。Nジャマーキャンセラーの入手後は、腰部のマウント部に核ジェネレーターを装備した。その際の本機は「スーパーハイペリオン」とも呼ばれる。

武　装　カートリッジ式ビーム兵器と絶対防御を備えた光波防御帯

「アルテミスの傘」は攻撃を通さない代わりに内部からも攻撃できなかったが、アルミューレ・リュミエール（「装甲した光」の意）はモノフェイズ（単位相指向型）に改良され、光波防御帯の内部から外部への攻撃を実現している。またビーム発生端末をビーム刃として展開し、攻撃にも転用できた。一方で電力消費が激しく、基本的に他の武装はカートリッジ式となっている。ただし、核動力搭載後は直接エネルギーチューブで武装を連結して電力供給を行えるように改良され、エネルギー切れの問題を解消している。

■ 武装レイアウト

アルミューレ・リュミエールの端末を各部に搭載。携行武装としてビームサブマシンガン、固定武装に大出力ビーム砲を持つ。格闘戦用にビームナイフも装備。



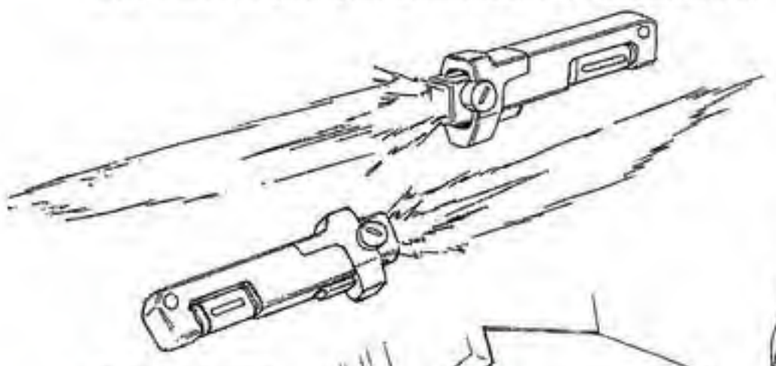
Ⓐ ザスタバ・スティグマト RFW-99

ビームサブマシンガン。単発の威力は弱いが、速射できるため制圧力に優れる。エネルギーカートリッジ（パワーセル）式。

銃身にはビームナイフを内蔵し、射出も可能。ストックやサブグリップの採用により射撃時の安定性は高い。

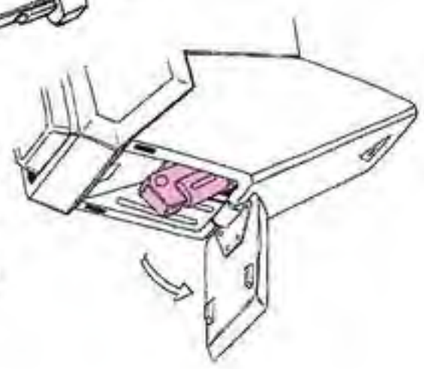
Ⓑ ロムテクニカ RBWタイプ7001

連合軍（大西洋連邦）では実体剣であるアーマーシュナイダーを用いる一方、ユーラシア連邦においてはビーム刃式のナイフを標準装備する。



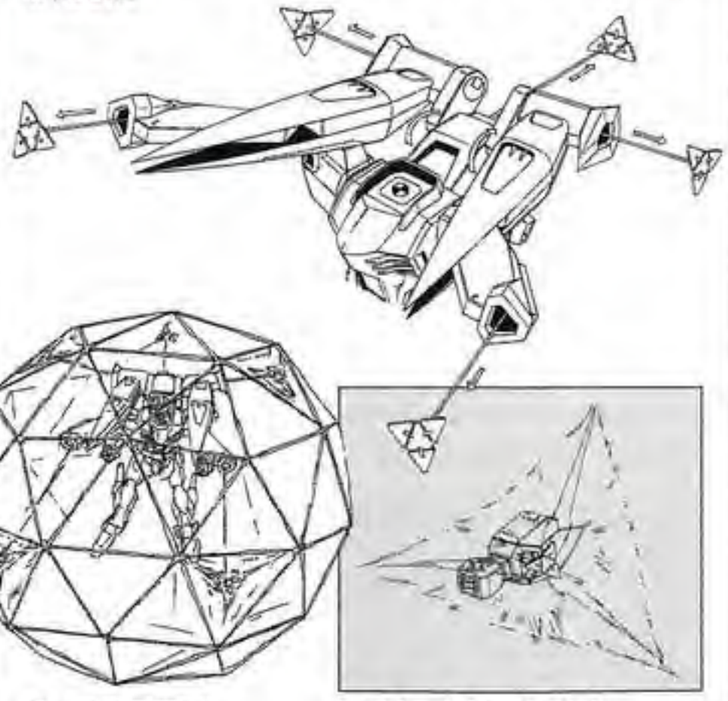
● 腕部内蔵時

上腕部にも装備。パワーセルで稼働し、アルミューレ・リュミエールの運用に支障を来たさないように配慮されている。



Ⓒ アルミューレ・リュミエール

実体弾とビーム双方を完全に防ぐビームシールドで、通常は盾として使用。完全展開時は各所の端末で機体を完全に覆う。最大稼働時間はわずか5分。



● 完全展開時

● ビームシールド時

Ⓓ フォルファントリー

● 展開時

本機が持つ最大威力のビーム砲。アルミューレ・リュミエール完全展開時にも発射できる。2門備えており、同時または片側だけでも発射可能。

©創通・サンライズ

刹那・F・セイエイ

Setsuna F Seiei

PROFILE

年齢	23歳
所属	ソレスタルビーイング
階級	ガンダムマイスター
出身	クルジス共和国
技能	MS操縦、脳量子波によるリンク

イノベイターへと革新したCBの中心的人物

来るべき対話と向き合った純粋種のイノベイター

イノベイド勢力と対峙した西暦2312年の戦いの最中、ダブルオーライザーの「トランザムバースト」モードを発動した刹那・F・セイエイは、高濃度のGN粒子を浴びたことで人類初のイノベイターへと進化した。変革のためにその身を投げ打つ覚悟を固めていた刹那だが、己自身に大きな変革が訪れたことに対しては、少なからず戸惑いや違和感を覚えていたのである。それでも彼は、世界のさらなる変革を願い、CBのメンバーであり続けた。「イオリア計画」の最終段階である、来るべき「対話」に備えるために――。

西暦2314年。連邦政府の新政権は融和政策を推し進め、それなりの効果を上げていた。だが、小さな反乱やテロは断続的に続いていたため、刹那らCBは極秘裏に介入を続けていたのである。一方で刹那は、「戦いを止めさせるためのガンダム」の開発を、CBのメカニックであるイアン・ヴァスティに依頼していた。

新型のガンダムが完成するまでの間は、強化型フラッグやダブルオーライザー（粒子貯蔵タンク型）を用いて介入行動を行っていた。

地球外変異性金属体ELS（エルス）の接触によって、イノベイターである刹那には大きな負担が掛かった。それでも彼は、対話を諦めなかった。

CHARACTER ―― その人格

以前から寡黙であった刹那だが、イノベイターに進化してからはこれまで以上に口数が減っていた。CBのクルーであるミレイナ・ヴァスティも「謎めいています」と、刹那からミステリアスな雰囲気を感じ取っていたのである。

マリナ・イスマイールやフェルト・グレイスなど、刹那を気に掛ける女性たちに対しても素っ気ない態度を取っていた。

RELATIONS

MAIN MS

GNT-0000
ダブルオークアンタ

ダブルオーライザーの後継機として開発された「対話」のためのガンダム。純粋種のイノベイターへと進化した刹那専用の機体である。

GN-0000RE+GNR-010
ダブルオーライザー（粒子貯蔵タンク型）

リボンズ・アルマークとの最終決戦によって大破した機体を、CBが改修したもの。GNドライヴを搭載しておらず、GNコンデンサーによって出力を得ている。

関連ファイル

GNT-0000　ダブルオークアンタ	00-01-19
ティエリア・アーデ	00-02-05
マリナ・イスマイール	00-02-35
純粋種イノベイター用機動兵器	00-03-30
ELSとの戦い（西暦2314年の紛争）	00-03-48

FILE PREVIEW

00-03-48　ELSとの戦い（西暦2314年の紛争）

西暦2314年、突如として接触を図ってきた地球外変異性金属体ELS（エルス）に対し、刹那や地球連邦軍、CBは彼らとの対話を試みる。

ただ俺には……生きている意味があった

「戦いを止めさせるための機体」＝ダブルオークアンタの最終調整が進む中、刹那はある違和感を覚えていた。その違和感を説明できず、戸惑いを見せる刹那。だが、その予感がELSの襲来であったことが判明すると、彼らとの接触を目指した。木星の探査船に擬態したELSとのファーストコンタクトでは、彼らの意思を感じ取り、刹那は攻撃を中断してしまう。その意思を明確に知ろうとした刹那は、二度目のコンタクト時にダブルオーライザーの「トランザムバースト」を発動し、高濃度粒子領域を生成する。だが、ELSの急激な干渉によって刹那の脳は大きなダメージを受け、昏睡状態に陥るのだった。

刹那が昏睡状態から目を覚ますと、3ヶ月という月日が流れていた。ELSと地球連邦軍の全面衝突は続いており、様々な物体を取り込むELSの圧倒的物量に対し、地球全土に危機が迫っていた。戦場へと復帰した刹那は、ついに完成したダブルオークアンタへ乗り込み、再びELSとのコンタクトに臨む。共に戦ってきたCBの仲間、さらにこれまで鎬を削ってきたライバルたちも彼の行動を後押ししたことで、超大型ELSの中枢へと辿り着く。刹那はそこで「クアンタムバースト」を発動し、イノベイターである自身の存在意義を懸けて、ELSと対話を試みたのである。―― 結果、ELSは活動を停止。対話による戦闘の終結がもたらされ、変革を望む刹那の長き戦いも、一応の終結を見たのだった。

足跡　イノベイターとしての孤独感

イノベイターに進化したことで、刹那はこれまで以上の重圧を覚えるようになっていた。CBの中心的存在となっていたこと、さらに己自身が世界の変革を促し、人類をイノベイターへと推し進めなければならないという使命感に包まれていたことが、刹那を苦しめていたのである。そうしたプレッシャーが焦りへと変わり、GNドライヴが搭載されていないダブルオーライザーでの不完全な「トランザムバースト」を発動させるに至り、大きなダメージを負う結果となった。だが、そんな彼に冷静さを取り戻させたのは、やはりCBの仲間の存在であった。昏睡状態の中で彼が見た、ニール・ディランディやクリスティナ・シエラら、刹那に未来を託して散っていった仲間たちの姿。それを見て刹那は、自身が孤独ではなかったことを改めて知り、仲間たちの想いも背負ってELSとの対話を目指したのである。

能力　脳量子波による対話

イノベイド勢力は、脳量子波を活かしてヴェーダとリンクし、戦場で的確な行動を取っていた。純粋種のイノベイターとなった刹那も、脳量子波によってヴェーダとリンクすれば、よりその戦闘をスムーズに進めることができたのである。事実、テロ部隊とフラッグ強化型で対峙した際も、圧倒的な強さを発揮して敵部隊を撃破していた。その後のELSとの対峙では、ヴェーダとのリンク能力を戦闘ではなく対話に用いている。

ダブルオークアンタのコクピットには、ヴェーダのターミナルを搭載。ヴェーダと一体化したティエリアのアドバイスを受けることができた。

Ⓐ ELSの正体を追って地球に降下した刹那が、民間人に扮して活動するために着用した私服。黒とグレーを基調としたカジュアルなスタイルである。
Ⓑ 強化型フラッグに登場していた際は、黒系統のパイロットスーツを着用。CBの活動は秘密裏に続けられていたことから、ガンダムマイスターと悟られぬための配慮と見られる。
Ⓒ 脳量子波の中で見えたとされる、刹那の一糸纏わぬ姿。人類とは大きく異なった性質を持つELSとの高濃度領域での対話は、その身を滅ぼす危険すらあった。

プトレマイオスクルーの一員として、地球圏に迫る危機を未然に防いでいた刹那。だが、ELSの登場はこれまでにない感覚を刹那に与えた。

ELSとのファーストコンタクトを終えたあと、ティエリアに攻撃中断の理由を聞かれた刹那であったが、その理由を言葉にすることができず「わからない」と答えている。

ダブルオーライザーで「トランザムバースト」を発動し、ELSとの接触を試みた刹那。だが、ELSの干渉を受け止めることはできなかった。

昏睡状態に陥った刹那。彼に想いを寄せるフェルトら、その回復を待ち侘びる仲間たちの声を感じたのか、刹那は意識を取り戻した。

コクピットに表示されたティエリアと共に行動する刹那。グラハム・エーカーら、様々な者たちの協力を得て、超大型ELSの中枢に辿り着いた。

クアンタムバーストによる対話を経て、ELSの意思を知った刹那。そして彼は、量子ジャンプによってELS母星へと向かい、ELSと結合した。

MORE INFO!　ELSとの接触、その後――

ELSとの対話によって、刹那はELSの特性を身体に取り込んだ。その後、彼はELSの母星から地球への帰還を目指したのである。だが、その距離はあまりにも遠く、刹那が地球に辿り着いたのは、50年後の2364年であった。彼はその足で、マリナ・イスマイールの下へと向かったのである。

ELSとの相互理解を果たすため、その特性すらも受け入れた刹那。結果、その身体は金属化している。

マリナの姿を見つけ、笑みを見せる刹那。ELSを取り込んだためか、50年を経ても刹那には老化が見られなかった。

マリナ・イスマイール

ELSとの対話から50年を経たため老化が進み、目も見えなくなっていた。だが、その気配で刹那が来たことを悟った。

デカルト・シャーマン
Descartes Shaman

PROFILE

年齢	――
所属	地球連邦軍
階級	大尉
出身	――
技能	MS／MA操縦、脳量子波

モルモットとして扱われた不遇の純粋種イノベイター

「イノベイター」となって得た常人を超えた力と人間的な屈辱

リボンズ・アルマークが画策したイノベイドによる人類支配は、ソレスタルビーイング（CB）によって打ち破られる。量子型演算処理システム「ヴェーダ」を巡っての最終戦闘の最中、刹那・F・セイエイ以外にも純粋種のイノベイターに覚醒した者がいた。それがデカルト・シャーマンである。

人類にとって初のイノベイター（当然CBの刹那は知られていない）と認定されたデカルトであるが、「イノベイター」を研究するための素材――いわばモルモットとして扱われたのだった。彼が軍人という立場であったことも（地球連邦軍に）都合良く働き、本来であれば異星人との対話の鍵となるべき人類の革新者が、脳量子波の軍事転用により戦いの道具に貶められてしまう。常人を超える力を持ちながら人間よりも劣る待遇を受け続けたデカルトは、その矛盾する状況に鬱屈した日々を送っていた。

イノベイターの証とも言える金色に輝く虹彩。その力はデカルトの人生を一変させ、モルモットとして扱われる現状に不満を抱くことになる。

イノベイターとしてELSと相互理解し、融合により新人類となれる可能性もあったが、様々な要因の結果、対話の芽は摘まれてしまう。

CHARACTER ―― その人格

他者を上回る能力を持ちながらモルモット扱いされたためか、力を得たがゆえか、デカルトは通常の人類を劣等種として見下していた。以前の彼を知る術はないが、その精神はそれまでの人類と何ら変わることはなかったと言える。

「モルモット扱いされ続ければ、心も腐ります」――斜に構えた態度をカティ・マネキンに「生意気」と言われたデカルトは、自嘲気味にそう語った。

RELATIONS

MAIN MECHANICS

GNMA-Y0002V ガデラーザ

イノベイター用に開発された大型MA。脳量子波制御によるGNファングをはじめとする武装を備え、圧倒的な戦闘力を誇る。巡航モードから戦闘モードへの可変機構を持つ。

関連ファイル

GNMA-Y0002V ガデラーザ	00-01-25
カティ・マネキン	00-02-27
ELS襲来	00-03-16
純粋種イノベイター用機動兵器	00-03-30
西暦2314年の世界とその後	00-03-45
イノベイター	00-03-46

FILE PREVIEW

00-03-16 ELS襲来

西暦2314年、イオリア・シュヘンベルグが予期していた「来るべき対話」が訪れる。異性体はELSと名付けられ、人類との接触は不幸にも戦闘という形となってしまう。

このモノノケどもがっ!!

西暦2314年、外宇宙航行艦ソレスタルビーイング号に配属という名目で軟禁され、実験が続けられていたデカルトは、カティ・マネキン准将と面会。その際、地球へと進路を取った130年前の木星探査船「エウロパ」の撤去に従事する。通常の戦力では止めることのできなかった船を新型のイノベイター専用MAを駆って破壊し、その力を示すのだった。だが、木星探査船の地球接近は、地球外変異性金属体ELS襲来の先触れであった。

木星に出現した膨大な数のELS。脳量子波に引かれるELSの特性を知った連邦軍は接触を試み、その真意を測るためイノベイターであるデカルトを含めた先遣隊を送る。先陣を切って接触するデカルトだがELSとの相互理解は成らず、戦端が開かれてしまう。ELSが脳量子波を持つ者だけが感じ取れるノイズを発することに意思を感じ取り、ELSを「モノノケ」——妖怪の類いだと称したデカルト。彼らが放つ脳量子波を「叫び」と捉え、「理解できない不気味な相手」と認識したがゆえの印象である。その認識のためかELSとの対話は念頭になく、敵と結論づけ圧倒的な戦闘力でELSを打ち払っていく。しかし、無数とも言える数を相手にして、ついにデカルトの機体はELSに捕捉される。圧倒的な情報の奔流がデカルトの意識を飲み込み、理解する間もなく精神崩壊に至るのだった。結局「イノベイター」として対話のスキルを活かす機会に恵まれないまま、デカルトは最期を迎えたのである。

足跡 イノベイターとなってからの歩み

アロウズに所属していたデカルトは、西暦2312年における最終戦闘に居合わせていた。そこでダブルオーライザーの高濃度粒子全面開放システム、「トランザムバースト」の影響に晒される。リボンズ亡き後のアロウズは解体。そうして地球連邦軍の軍人に戻ってからのデカルトは、身体に変調を来す。身体機能の向上と共に勘の冴えまでも見せ始めた結果、軍の訓練においても好成績を収め始めたデカルトの前に、ある日、技術者たちを連れた高官が訪れたのである。軍の研究施設へと送られたデカルトには、研究という名の人体実験が連日繰り返されたのち、人類初のイノベイターだと結論付けられたという。以後は行動を制限され、モルモットとしての日々が始まった。そして西暦2314年、イノベイター専用MAを与えられたデカルトは、日頃の鬱憤を晴らすかのようにELSへとその力を存分に振るうのであった。

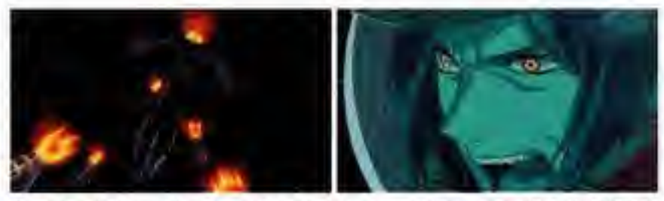
能力 戦いに用いたイノベイターの能力

状況把握力・空間認識力・細胞変化による肉体強化・常人に倍する寿命・脳量子波の増大とGN粒子散布領域における脳量子波での意識共有など、イノベイターは通常の人類を超えた能力を持つ、まさしく進化した人類である。軍人であったデカルトは、結果的に戦闘のためその力を振るうこととなり、イオリアが望んだ異星の知性体との「対話」に、イノベイターの能力を用いる機会は与えられなかった。

兵士として優秀なだけでなく、イノベイターである彼は脳量子波を用いて武装を操ることも可能。また鋭い洞察力を備え、相手の思考を読むこともできた。

Ⓐソレスタルビーイング号にある研究室での姿。身体にフィットしたボディスーツで、首と両手首にデータ観測用と思われる器具を身に着けている。
Ⓑデカルト専用のパイロットスーツ。ヘルメットとスーツには脳量子波遮断装置が導入されており、これがELSとの相互理解を阻んだ要因とも言われる。
Ⓒイノベイターの力が生んだ自信からか、態懲無礼な態度を取る。モルモットという境遇に不満を持つデカルトは、言葉の端々に皮肉な一面を覗かせた。

訪れたカティに対し、木星探査船の軌道変更作戦が失敗することを予見して見せるデカルト。さらに彼女の内心を読み、イノベイターとしての力を垣間見せるのだった。



「日頃の鬱憤、晴らさせてもらう！」モルモット扱いの不満を木星探査船にぶつけ、軍事面におけるイノベイターの優秀さを見せ付ける。

その直後、デカルトは脳量子波に響いてくる不思議な感覚に晒される。それは遠く離れている木星にELSが出現する予兆であった。

変質した木星電波の解析を求められ、「叫び」だと伝えるデカルト。自分を便利に使おうとする者たちを蔑み、劣等種とひとりごちる。

ELSの数に抗し切れず、デカルトは捕捉され取り込まれてしまう。脳量子波を通じて入ってくるELSの情報量に耐えられず、呆気ない最期を迎えた。

MORE INFO! 人類革新の萌芽

イノベイド勢力との戦いを経て、「イノベイター」の存在は周知される。西暦2314年、イノベイターに変革する可能性を持つ人々は増大傾向にあった。地球連邦政府は、イノベイターの人口増加と共に今までの人類との能力差が露呈し、軋轢を生むと考えてインフラの整備を進めている。さらにELSの襲来で人類の変革は加速された。イノベイターとELSが相互理解することで融合し、ハイブリッドと言うべき新人類が誕生したのである。そして西暦2364年、人類の4割はイノベイターとなっており、人類は新天地を求め外宇宙へと旅立つのだった。

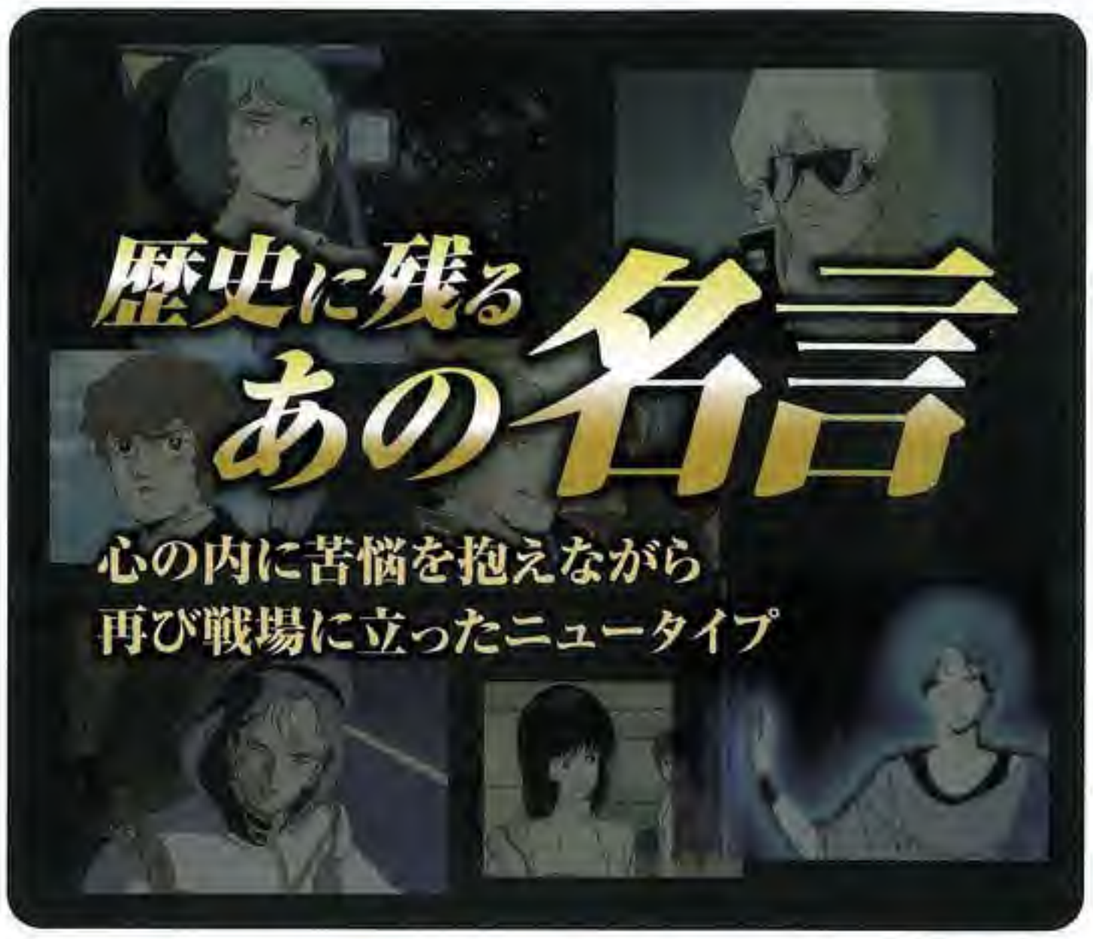
金属生命体としての特徴が身体に現れている、イノベイターとELSのハイブリッドと呼べる新たな人々。

刹那・F・セイエイ

イノベイド勢力との戦いで覚醒した史上初の純粋種イノベイター。ELSとの対話に赴き、その侵攻を食い止める。その後、ELSと融合して地球へと帰還した。

アーミア・リー

イノベイターの資質を持つ女子高生。木星探査船の破片から生まれたELSに浸食されたが、イノベイターとして覚醒し、相互理解を経てハイブリッドとなった。



アムロ・レイ編

Case of Amuro Ray

7年の眠りを経て、グリプス戦役で再起したアムロ・レイ。葛藤を乗り越えた一年戦争の英雄は、戦いの中で再び輝きを放ち始める。

ティターンズとの戦いでアムロが残した数々の言葉

U.C.0087.05 | 地球・北米 | 13話

こういう生活を強制されたら 少しは骨抜きの人間になったって仕方ないだろ！

現状に埋没する行為をカツに非難されたアムロは、シャイアンでの生活を地獄と語る。その表情には、7年間の苦悩が滲んでいた。

エゥーゴとティターンズの武力衝突が本格化し始めたU.C.0087.05、地球連邦軍シャイアン基地に配属されていたアムロは、後進の指導に当たっていた。そのアムロの元を、一年戦争で共に戦ったフラウ・コバヤシ母子が訪れる。反ティターンズ運動に参加しないことに対しカツ・コバヤシに責められたアムロは、自分を納得させるかのように反論するのだった。

一年戦争終結後のアムロは、ニュータイプを危険視した地球連邦軍によって、事実上の軟禁状態に置かれていた。しかし、それ以上にアムロを縛り付けていたものは、一年戦争で受けた彼自身のトラウマであったと言える。それゆえ、アムロは戦うことを恐れるようになり、地球圏の現状を憂いながらもエゥーゴやカラバへの参加を決断できずにいた。そして、そんな自分を認められずに、カツに対して自己弁護にも等しい言葉をぶつけてしまったのであろう。

U.C.0087.07 | 地球・太平洋上 | 20話

人の善意を無視するヤツは 一生苦しむぞ、カミーユ！

フォウの思念を感じ取り、カミーユの宇宙への脱出を援護しようとするアムロ。その鋭い感覚にはカミーユも驚愕の表情を浮かべた。

周囲の後押しもあってアウドムラに合流したアムロは、己の内面と向き合いながら徐々にかつての感覚を取り戻していく。一方、アウドムラは太平洋上でスードリの追撃を受ける。その際に、カミーユ・ビダンと心を通わせたフォウ・ムラサメは彼を宇宙に帰すために命を懸ける。アムロはその姿に自分の過去を重ね、フォウの身を案じて躊躇するカミーユを叱咤する。

アムロの復活の一助となったのが、カミーユの存在であった。ニュータイプとして高い資質を見せる少年の姿は、かつての自分を思い起こさせた。さらに、フォウとカミーユの交流は、自分とララァ・スンの関係にも重なったのである。自分を犠牲にしてまでカミーユを先に進ませようとしたフォウの行為を無駄にさせないため、アムロはカミーユの背中を押した。それは、ララァとの別れにトラウマを背負った自分と同じ轍を踏ませまいとする、強い想いの表れだったのである。

U.C.0087.11.03　地球・キリマンジャロ　36話

人は同じ過ちを繰り返す……まったく！

サイコ・ガンダムに攻撃を掛けるアムロだったが、説得を試みるカミーユの言葉を聞き入れ、フォウをカミーユに委ねる。しかし……。

グリプス戦役後期、アムロはカラバの一員として戦い、ティターンズのキリマンジャロ基地攻略作戦に参加した。だが、キリマンジャロの戦場はカミーユとフォウの再会の舞台ともなる。再調整を施されて戦いに駆り立てられるフォウと、彼女を救おうとするカミーユ。その末に、フォウはカミーユを庇って命を落とす。そしてアムロは、眼前の悲劇にかつて自分が味わった感情を想起し、苦しげに独白するのだった。

一年戦争において、アムロはニュータイプとしての共感を得たララァを戦いの中で失った。そして、キリマンジャロの攻防戦でフォウが迎えた最期は、アムロにとってララァの死の再現であった。ニュータイプ能力を持つ者が、戦争の道具として利用されて命を落とす。それを繰り返してしまう人の業を、アムロはもうひとりの当事者であるシャア・アズナブル（クワトロ・バジーナ）と一緒に嘆いたのである。

U.C.0087.11.16　地球・ダカール　37話

人間は戦い続けて歴史を作ってきた　それがなければ、人間は滅んでいたさ

出撃前のカミーユを気遣うアムロ。自分たちが克服に7年を要した痛みを負いながらも、前向きに戦おうとするカミーユを激励した。

キリマンジャロ攻略作戦ののち、カラバはティターンズの専横を告発すべくダカールの地球連邦政府議会を占拠して、ゲリラ的に演説を行う作戦に打って出るのだった。その出撃の直前、フォウを失ったカミーユを気遣うアムロ。カミーユとの会話の中で、戦う意味がわからないと語る彼に対して、アムロは戦い自体に意味はないと言い切りつつも、自分が経験から得た答えを語るのであった。

アムロが言うように、人類の歴史は戦争の歴史であった。その中で人類は技術を発展させ、多大な犠牲を払いながら進歩してきた。そうした功罪を理解していたからこそ、アムロは戦うべきときに戦うことを否定しなかったのだろう。また、ニュータイプもある意味、戦いによって急激な覚醒を促された存在だったと言える。軍人として、そしてニュータイプとして、アムロはカミーユに戦うことの意義を語ったのである。

U.C.0087.11.16　地球・ダカール　37話

人は変わっていくものだろう？

ダカールでティターンズを告発する役目を負ったシャアだったが、その胸中には迷いがあった。シャアの心情を察したアムロは、彼がエゥーゴを率いるに足る人物であると信じ、反ティターンズの旗印として表舞台に立つことを託した。そして、政治的なシンボルという道化になるのを嫌うシャアに対して、彼のような存在を求める時流を説き、それに応じて自分たちも変わっていくべきだと語るのだった。

戦場に復帰した当初、アムロはララァを巡るシャアとの確執を払拭し切れていなかった。だが、同じ陣営で戦いを重ねていく中で、シャアに対するわだかまりを解消していった。シャアとの会話でアムロが語った言葉は、そうした自身の変化を表していたとも言える。そして、ベクトルこそ違えどもシャアにもそうあって欲しいと考えたのだろう。その根底には、同様に地球圏の未来を憂う者としての共感があったに違いない。

CHARACTER'S MIND

グリプス戦役でエゥーゴの中核だったシャアは、地球連邦の腐敗を目の当たりにした結果、「シャアの反乱」において粛清による地球圏の改革を志した。結果的に、アムロの願望とは正反対の方向に「変わって」しまったのである。

「シャアの反乱」において、アムロは道を違えたシャアと決着をつけることになる。

MORE INFO!

シャアとの関係

アムロにとってシャアは因縁の相手であり、その確執は簡単に拭えるものではなかった。実際、アウドムラに合流した当初はシャアと口論を繰り広げ、クワトロとして戦う彼を認めようとしなかった。ただし、シャアの人格は認めており、彼を警戒するベルトーチカ・イルマに対して、擁護する発言をしていた。また、ダカール演説の後には、シャアと冗談を交わしていた。ララァという取り除けない棘はあったにせよ、シャアとの関係は改善されていたと言える。

過去に囚われ悶々とするアムロに、シャアは厳しい言葉を投げ掛ける。ララァを巡る因縁は、7年を経てもお互いに傷を残していたのである。

ダカール演説の成功を祝って乾杯するアムロとシャア。冗談でシャアを「人身御供の家系」と評し、シャアもそれに苦笑で応えた。

カミーユへの期待と教訓

アムロは戦場でカミーユの優れた資質を目の当たりにし、期待を掛けるようになっていった。カミーユを宇宙に上げようとしたのもそれが理由のひとつで、重力に囚われた自分の二の舞を演じさせまいという思いがあったようだ。また、カミーユとフォウがかつての自分とララァのようになることを危惧し、カミーユにフォウとの接触を避けるよう助言している。アムロはニュータイプとして苦い経験を積んだからこそ、カミーユの行く末を案じたのである。

アウドムラに合流した当初は、カミーユに対して弱さを晒すこともあった。しかし、かつての感覚を取り戻すにつれ、良き先達となっていった。

フォウを気に掛けるカミーユに、近づかないようと警告する。カミーユがフォウから受けた感覚が、ニュータイプ特有のものと見抜いたのである。

カイ・シデン／セイラ・マス

Kai Shiden／Sayra Mass

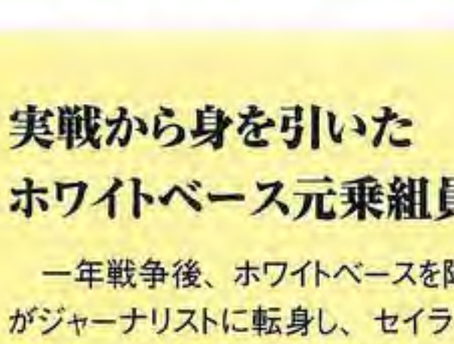
PROFILE

年齢	24歳（カイ）、25歳（セイラ）
所属	——（民間人）
階級	——
出身	サイド3（セイラ）
技能	情報収集（カイ）

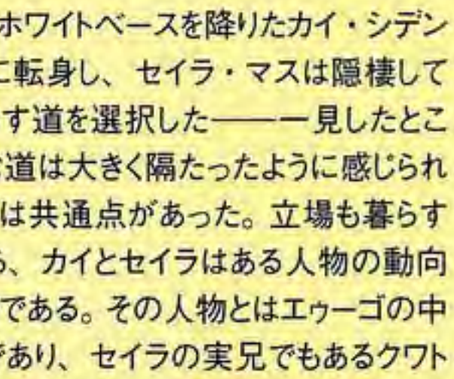
unknown

実戦から身を引いた ホワイトベース元乗組員の現状

一年戦争後、ホワイトベースを降りたカイ・シデンがジャーナリストに転身し、セイラ・マスは隠棲して静かにひとり暮らす道を選択した——一見したところ、ふたりが進む道は大きく隔たったように感じられる。しかし実際には共通点があった。立場も暮らす世界も違いながら、カイとセイラはある人物の動向に注目していたのである。その人物とはエゥーゴの中心人物のひとりであり、セイラの実兄でもあるクワトロ・バジーナだった。ジオン・ダイクンの遺児としてスペースノイドに絶大な影響力を有するクワトロが、グリプス戦役ではその影響力を振るうことなく一介のMSパイロットの立場に甘んじている。彼の正体を知るカイにはそれが歯痒かったようだ。一方、セイラはクワトロを危険視していた。戦乱に乗じて彼が性急な行動に出ることを恐れていたのである。それ故、ふたりはそれぞれの想いを胸に、クワトロの動きを注視することに没頭したのだった。



ジャーナリストとして活動するようになってからも飄々とした態度に変わりはなかったカイ。逆にその態度を巧みに利用して、真実を追求しようとした節が見受けられる。



世捨て人のような生活を送るようになったセイラ。周囲で高まる戦乱の兆候も、彼女はどこか他人事のように感じていたように見受けられる。

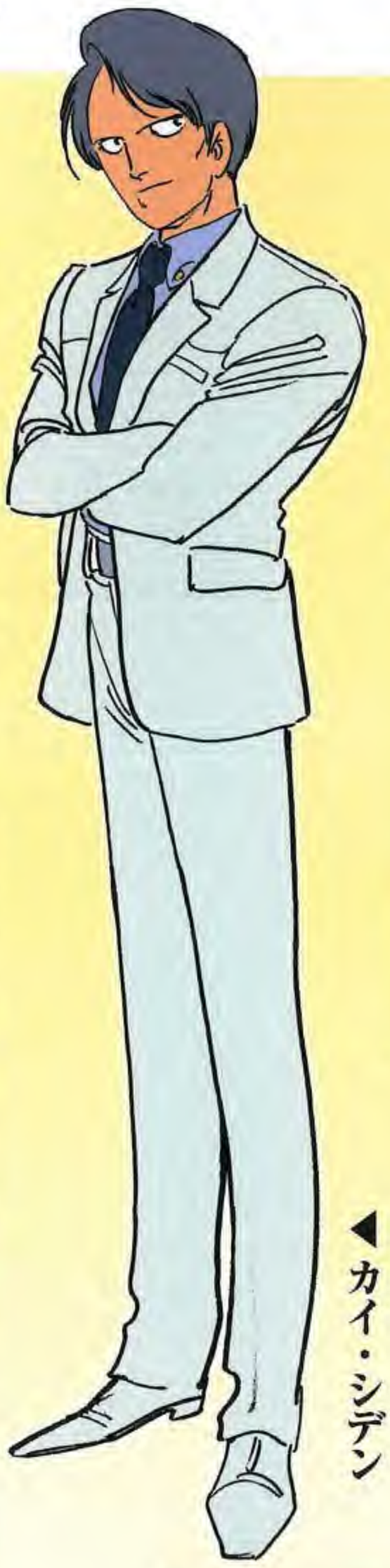
CHARACTER ——— その人格

一年戦争の最中、兄と再会したセイラは相手の変貌に驚いた。かつては政治とは無縁だった兄は、「ニュータイプによる世界を見てみたい」と平然と言ってのけるまでになり、セイラはその言葉に危険な兆候を感じ取ったのだった。

兄の言葉に滲む危険性に気付いたセイラは、将来、彼が暴走した時には自分の手でその命を終わらせなければならないと決意している。

RELATIONS

戦乱の続く地球圏を第三者の視点から眺めた人々



◀カイ・シデン

◀セイラ・マス

荒事にも慣れたカイだけに、力尽くでの行動も辞さないほどになった。真実を追求する想いはそれほど強かったようだ。

争いや衝突とは一切無縁の生活を送るセイラ。それでも胸中の憂いは晴れず、カイ以上に鬱屈した想いを抱えていたと思われる。

関連ファイル

クワトロ・バジーナ	Z-02-02
レコア・ロンド	Z-02-04
ブライト・ノア	Z-02-09
ハヤト・コバヤシ	Z-02-14
ジャブロー侵攻作戦	Z-03-04
ダカール演説	Z-03-10
グリプス戦役期の世界	Z-03-29

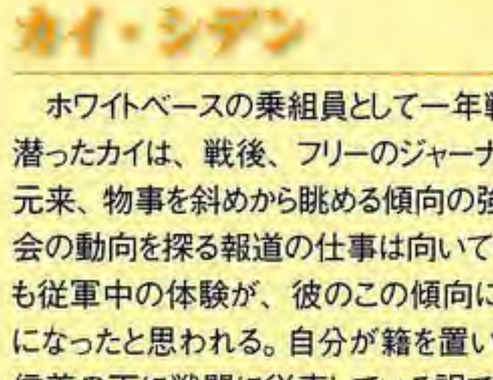
FILE PREVIEW

Z-02-02 クワトロ・バジーナ

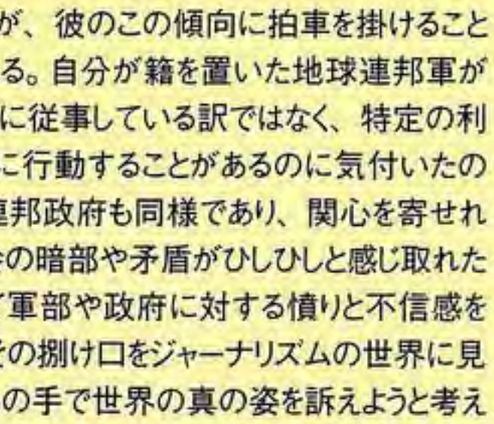
エゥーゴの中核メンバーのひとり。その正体は、かつて「赤い彗星」として恐れられた公国軍人シャア・アズナブルであり、さらにジオン・ズム・ダイクンの遺児キャスバルでもあった。

カイ・シデン

ホワイトベースの乗組員として一年戦争の激戦を掻い潜ったカイは、戦後、フリーのジャーナリストに転向した。元来、物事を斜めから眺める傾向の強いカイだけに、社会の動向を探る報道の仕事は向いていたのだろう。しかも従軍中の体験が、彼のこの傾向に拍車を掛けることになったと思われる。自分が籍を置いた地球連邦軍が信義の下に戦闘に従事している訳ではなく、特定の利益や思想のために行動することがあるのに気付いたのだ。それは地球連邦政府も同様であり、関心を寄せれば寄せるほど社会の暗部や矛盾がひしひしと感じ取れたのである。こうして軍部や政府に対する憤りと不信感を募らせたカイは、その捌け口をジャーナリズムの世界に見出した。そして自らの手で世界の真の姿を訴えようと考えるまでになる。ティターンズとエゥーゴの対立が激化し始めた頃、単身で連邦軍本部ジャブローに潜入を図ったのは、ジャーナリストとしての信念の表明だったに違いない。軍から身を引いたとはいえ、カイは彼なりの手段で戦いを続けていたのだ。それがどんなに小さな戦いであろうと、彼は決して屈しようとしなかった。



ジャブローのある密林地帯に入ったカイは、とある偶然からエゥーゴの連絡員レコア・ロンドを救出。ふたりで連携してジャブロー潜入を目指すことになったのだが……。



結局、警備兵に見つかりジャブロー内に監禁されてしまった。だがエゥーゴのジャブロー降下作戦に乗じて脱出。さらに南極条約を無視した連邦軍の所業を垣間見る機会に遭遇することになった。

セイラ・マス

カイと同じように軍から身を引いたセイラは南フランスの一角に居を構え、主に株の売買で生計を立てていた。しかし安定した生活を手に入れたとはいえ、彼女の表情は精彩を欠いていたとされる。一年戦争での凄惨な体験、中でも兄との再会と別離は、それほどまでに彼女の心を疲弊させていたのである。だからこそティターンズの台頭を皮切りとする戦乱の予兆が高まっても、セイラは自ら動こうとしなかった。エゥーゴの中核に座すクワトロ・バジーナから兄の気配を感じ取っても、彼女は敢えて行動を起こさずにいた。セイラにとって兄はすでに過去の人物であったのだ。だからこそカイのようにクワトロの動向を直接的に追うことなく、セイラは兄の思惑に想いを巡らせるだけに留まっている。しかし物静かな表情の下で、相反する考えも抱いていたようだ。兄の思想は危ういところがあり、ひとたび表舞台に出ることを決意すれば新たな混乱を引き起こしかねない、と……。もしかしたらセイラの隠遁生活は、兄が引き起こすであろう混乱を収める力を蓄える準備期間だったのかもしれない。

戦争の当事者ではなくなったとはいえ、セイラが自らの手を血に染めていたことは拭い切れない事実である。それが彼女の精神を疲れさせ、隠遁生活に追いやることになったと思われる。

Ⓐ白いスーツは、ジャーナリストとしてのカイの制服のようなものだったらしい。またスーツの上にコートを羽織ることもあり、これによって風格が増している。
Ⓑかつてのへそ曲がりの少年は影を潜め、真実を追い求めようとする精悍な眼差しを有するまでに成長した。混迷する世界がカイを変えたとも言えるだろう。
Ⓒ常に愛いに満ちた表情を浮かべていたセイラ。その顔からは、ホワイトベース隊の一員として戦場を駆けていた頃の覇気が失われてしまっている。
Ⓓ兄と訣別してからのセイラは毎日を無為に過ごすことが多かった。自宅の一角で時間が経つことも気にせずに遠くを見つめる姿が、多く目撃されたと言われる。

ジャブロー基地に監禁されたカイだが冷静に兵たちの動向を観察。浮足だった雰囲気から敏感に異変を感じ取ると、脱出の機会に生かそうと画策した。

カイが感じ取った異変とは、エゥーゴ降下部隊の突入のことだった。その後、カミーユ・ビダンによってレコアが救出され、カイもエゥーゴ部隊と同行することとなった。

ケネディ宇宙港に到着したカイはエゥーゴの面々と別れた。しかし別れ際、宇宙港に併設された戦争博物館館長（ハヤト・コバヤシ）に、クワトロに関するメッセージを託し、その正体を示唆している。

のちに自らの正体を明かしたクワトロは、連邦議会でティターンズの凶行を告発。その様子は世界規模で中継され、カイもどことも知れない場末のバーで放送に耳を傾けた。

セイラもまたクワトロの告発を聞いていたが、それを良しとはしなかったらしい。それどころか兄の暴走の予兆と感じ取ったようにも思える。

MORE INFO！　カイがジャーナリストを志した理由

カイがジャーナリストに転向した理由として、ミハル・ラトキエが残した弟妹（ジルとミリー）を探すためとの説がある。ホワイトベースを出奔したカイはミハルの家にしばし身を寄せ、幼い弟妹と懸命に生きる彼女に心を動かされた。その時の想いが彼を突き動かしたというのである。

公国軍のスパイとして生きるミハルとそんな姉を懸命に支える弟妹。その姿にカイは、軍部や政府への憤りを芽生えさせたのだった。

ミハルが命を落としてからのジル（右）とミリー（左）の消息は不明。一説によるとジルはムラサメ研究所に被験体として引き取られ、ミリーは誘拐されたと言われている。

歴史フォーカス

来るべき対話

A wakening of the Trailblazer

AD 2314

「イオリア計画」における ひとつの結実

西暦2314年、木星を介して現れた地球外変異性金属体ELS（エルス）が地球圏に侵入し、人間を含む生物や様々な物体と融合する事件が起こった。

ELSが太陽系に出現した背景には、ELSの母星が属する恒星の寿命によるエネルギー不足、ELSのエネルギー源となる光や物質（特に無機物）を獲得するための宇宙進出がある。つまり、ELSは住環境の悪化に耐えかねて故郷を離れた末、太陽系に辿り着いたのだった。なお、ELSが木星に出現した理由は、同惑星がELSの母星と似た環境だったためと言われる。

太陽系に到達したELSだったがその特性が問題となった。ELSは他の生物や物体と融合することで、融合対象を「理解」し、その特性を獲得するという特徴を持つ。種全体で意思や知識を共有する群体生物で、個体間の通信に脳量子波を用いる点もELSの特性であった。他にも、単独での航宙能力と高速移動能力、サイズや数によってはMSを撃破可能な戦闘能力などが知られる。

これらの特性を持つELSは、地球人類の一部が放つ脳量子波に引き寄せられる形で、地球に接近した。地球人類と接触・融合することで「相互理解」しようとしたのである。これはELSとしては当たり前の行動だったが、地球人類から見れば、人間や機械と融合するELSは脅威以外の何物でもなかった。個体ごとに別の意思を持つ地球人類が、ELSにとって想像の埒外の存在だったこと、相互理解のキーとなるイノベイターに対して大量の情報を送ってしまったことなども、意思疎通を困難にしていた。

結果、地球連邦／ソレスタルビーイング（CB）ともにELSの意図を把握できないまま時間が経過。さらに、火星宙域における地球連邦平和維持軍とELSの戦闘で派遣艦隊が壊滅し、地球連邦政府は地球圏でのELS迎撃を選択した。相互理解がなされないまま、地球人類とELSは戦うことになったのだ。

しかし、地球人類が勝利する可能性は皆無だった。地球圏に到来したELSの総数は、地球連邦平和維持軍の1万倍にあたり、兵器の質や戦術で覆せるレベルを超えていたのである。地球連邦平和維持軍やCBとの戦闘経験により、兵器への擬態能力やGNフィールド能力をELSが獲得していた点も問題だった。実際、地球連邦平和維持軍とCBは壊滅的な被害を受け、地球はELSに融合・同化されるかに思われた。

その時、CBが切り札を投入する。ELSとの接触で行動不能に陥りながらも復活を果たした純粋種イノベイターの刹那・F・セイエイ、そして「対話のための機体」ダブルオークアンタである。

多くの犠牲を払って、ELSの旗艦と言える大型ELSの中枢に飛び込んだダブルオークアンタは、ELSとの「対話」を開始する。イオリア・シュヘンベルグが夢見た「来るべき対話」が実現しようとしていた。

（レイモンド・ボーグナイン　A.D.2364）

関連ファイル

GNT-0000 ダブルオークアンタ	00-01-19
刹那・F・セイエイ	00-02-01
ELS襲来	00-03-16
純粋種イノベイター用機動兵器	00-03-30
イノベイター	00-03-46
地球外変異性金属体ELS	00-03-47
ELSとの戦い（西暦2314年の紛争）	00-03-48

FILE PREVIEW

00-03-48　ELSとの戦い（西暦2314年の紛争）

西暦2314年、地球圏に侵入した地球外変異性金属体ELSと人類の間で戦端が開かれた。しかし、ELSの総数は地球連邦平和維持軍の1万倍にも達し、人類は滅亡の危機に瀕することとなる。

Illustration by SE JUN KIM ／Color by AKEMI TESHIMA (Wish) ／Special Effect by AKIKO YAMAKAWA (ASAHI PRODUCTION) ／Background by KAWABATA REINA (SANZIGEN)

人類史上最大の危機と地球連邦政府の対応

ELSの地球圏接近に際して、地球連邦政府は大きくふたつの方針――軍事的な方針と一般市民向けの方針――を打ち出した。軍事的な方針は、地球連邦平和維持軍の全現有戦力を投入した絶対防衛線の構築である。民間向けの方針はELSに関する情報統制で、市民の避難こそ行わせたものの、地球壊滅の可能性が極めて高いことは伏せられた。これは事実上の情報隠蔽と言えた。だが、想定被害が地球壊滅である以上、パニックを警戒して真実を報道できなかったのだろう。

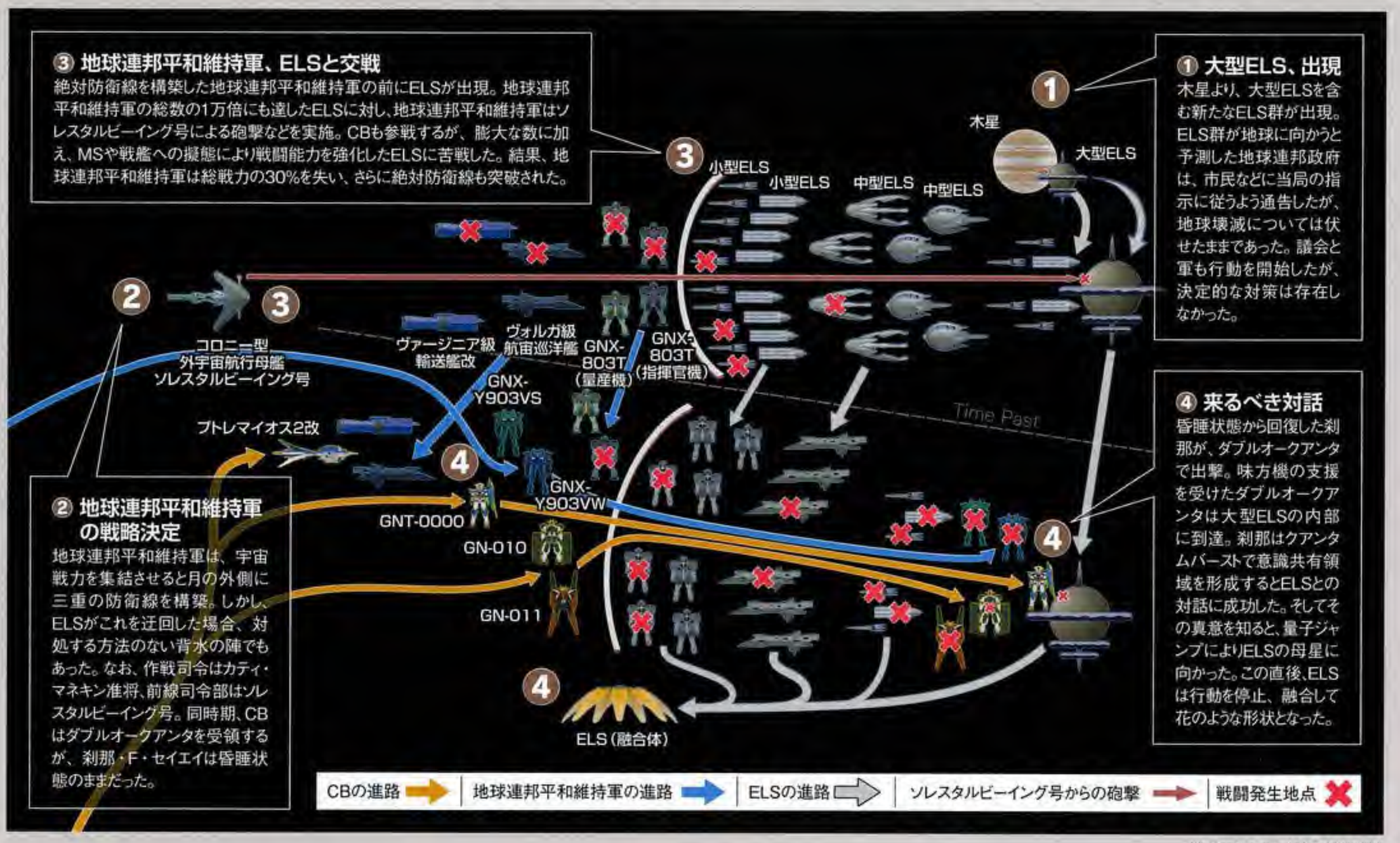


Illustration by AKIO UNUMA

1 大型ELS出現

直径3,000kmもの大型ELSを含めた、新たなELS群が木星に出現。これを察知した地球連邦政府は、新たなELS群が地球に向かうと予測し、対応策を模索すると共に大型ELSの出現を報道した。報道の中で地球連邦政府は、地球圏や火星を中心とした太陽系各所に影響が出る可能性を指摘し、市民に各機関の指示に従うよう通達。ただし、予測される地球壊滅については説明しなかった。地球連邦政府は市民保護とマスコミ対策の実施に入り、12時間後の避難開始を決定。議会と軍も動き出した。

木星のワームホールから出現した大型ELSは、月とほぼ同じサイズだった。地球連邦政府は対策に乗り出すが、決定的な対策は何もなかった。

2 軍の戦術決定と市民の避難

地球連邦平和維持軍が、全現有戦力を投入しての絶対防衛線の構築を決定。作戦司令はカティ・マネキン准将、前線司令部はコロニー型外宇宙航行母艦ソレスタルビーイング号とされ、宇宙戦力の集結と配置が進められた。ただし、ELSが絶対防衛線を迂回して地球に向かった場合、対処する方法はなかった。地球では「地上に被害が出る可能性はないが、万が一を考えて」という名目で、シェルターなどへの市民の避難が進められた。ELSの地球圏到達まで、後7日ほどと考えられた。

地球連邦平和維持軍は、月の外側に三重の防衛線を構築した。CBはダブルオークアンタを受領したが、刹那はいまだ回復していなかった。

3 地球連邦平和維持軍、ELSと交戦開始

絶対防衛線を構築した地球連邦平和維持軍の前に、ELS群が出現。ELSの総数は地球連邦平和維持軍の1万倍にも達した。地球連邦平和維持軍は先制攻撃を行うが、ELSはGNフィールド能力を身に付けており、攻撃を無効化。これを受けた地球連邦平和維持軍は、ソレスタルビーイング号による砲撃、MS部隊を投入した近接戦闘などを実施したが、圧倒的な数で押し寄せるELSに苦戦。CBも到着してELSへの攻撃を開始したが、地球連邦艦隊の30%が失われ絶対防衛線は突破された。

ELSは数で優勢なだけでなく、艦艇やMSへの擬態で戦闘能力も向上。大型ELSに至っては、大型粒子砲に対する耐性すら獲得していった。

4 「対話」の成立

刹那が復活し、ヴェーダの小型ターミナルユニットを搭載したダブルオークアンタが「対話」のために出撃。先行投入されていたCBのガンダム2機、地球連邦平和維持軍の一部が、大型ELSの中枢に向かうダブルオークアンタを支援し、血路を開いた。地球連邦艦隊の70%が失われた頃、大型ELSの中枢に到達した刹那は、イノベイター、クアンタムシステム、ヴェーダの能力でELSの真意を知ると、真の「対話」のため量子ジャンプでELSの母星に向かった。直後、ELSは行動を停止し、事態は終息した。

刹那はクアンタムバーストで意識共有領域を形成し、ELSとの「対話」に成功。行動を停止したELS群は、融合して花のような姿となった。

MORE INFO!

ELS戦後の世界

ELSの出現を発端とする混乱が終結すると、世界はイノベイターの増加、ELSとの共存というステージに入った。イノベイターを敵視する勢力により紛争が引き起こされたものの、世界の方向性は変わらなかった。

■ELSとの共存

地球人類を理解したELSは、地球人類との共存を選んだ。イノベイターや各種機械と融合したものもいるが、大々的に姿を現す個体は少数派のようである。

花のような姿に変容した大型ELSは、宇宙ステーションとして使用された。大々的に利用されているELSの代表である。

■イノベイターを巡る戦争

反イノベイター派が、イノベイターと親イノベイター派を駆逐するため紛争を引き起こした。紛争は親イノベイター派が勝利し、地球連邦政府の政策は継続された。

■スメラギの出港

西暦2364年、地球連邦の外宇宙航行艦スメラギが、外宇宙探査のための長期航海に出港した。スメラギには、量子ジャンプ能力を持つ機体も搭載されている。

西暦2364年、人類の4割がイノベイターに。スメラギの全乗組員は、長期航海に耐えうるためイノベイターが選ばれた。

©創通・サンライズ・MBS

MS運用理論

純粋種イノベイター用機動兵器

History of MS Development in AD
西暦のMS開発史

イノベイター対応の革新的機体

西暦2312年から出現し始めたイノベイター（純粋種イノベイター、真のイノベイターとも呼ばれる）の能力を十全に反映するため、イノベイター専用機動兵器の開発が進められた。ソレスタルビーイング（CB）と地球連邦平和維持軍での開発が特に知られる。

当初、CBと地球連邦平和維持軍ではイノベイター専用機に求める性能傾向が異なり、CBでは「対話」を、地球連邦平和維持軍では戦闘能力を重視している。これは各組織における事情が異なっていただけではなく、イノベイター専用機自体が模索段階にあったことを示していた。

イオリア・シュヘンベルグが出現を予測したイノベイターは、脳量子波による高度な意思疎通能力を持つ人間である。他にも、優れた空間認識力、強靭な肉体、遅い老化速度といった特徴を持っている。

イノベイドや超兵の例から理解できるように、脳量子波の送受信能力は反応速度に直結するため、高度な脳量子波能力を持つ人間は、機動兵器のパイロットとして優れていた。フィジカル面の強さも、高いGへの耐性や戦闘時間の延長に繋がる。つまり、イノベイターは極めて強力な「兵士」でもあったのだ。

兵士としてのイノベイターはイオリアの望むところではなかったが、地球連邦平和維持軍ではイノベイターの軍事利用が模索された。地球圏の実情が軍備の放棄を許さなかったうえ、ひとりで多数の一般将兵と置換できるイノベイターが、地球連邦政府の軍縮路線に適合していたためである。

西暦2312年以降、平和的交渉による問題解決を基本路線とした地球連邦政府だったが、紛争の火種となりうる不安定要素は残っていた。そのため、軍縮は進めるものの、軍事力を放棄するわけにもいかなかったのだ。そこで採用されたのが、複数の兵器を少数の高性能兵器に置き換える方策だった。

一騎当千のイノベイター専用機動兵器は、その頂点に立つ存在である。それまでの技術では、イノベイター用機動兵器は実現困難だったが、イノベイドの技術獲得がそれを可能とした。結果、試作された機体がGNMA-Y0002V ガデラーザである。

一方のCBでは、イノベイターとして覚醒したガンダムマイスター、刹那・F・セイエイのために新型ガンダムが開発された。「世界を変える機体」とまで呼ばれたGN-0000 ダブルオーガンダムですら、刹那の能力を引き出し切れなくなったためである。

こうして誕生したのが、GNT-0000 ダブルオークアンタだった。本機で重視されたのは相互理解を促す意識共有領域の形成能力で、イノベイターの脳量子波があって初めて機能するものだった。

（ジョン・ドゥ&リチャード・ロウ 執筆時期不明）

関連ファイル

GNT-0000 ダブルオークアンタ	00-01-19
GNMA-Y0002V ガデラーザ	00-01-25
刹那・F・セイエイ	00-02-01
デカルト・シャーマン	00-02-17
来るべき対話	00-03-17
ツインドライヴシステム	00-03-26
イノベイター	00-03-46

FILE PREVIEW
00-03-46 イノベイター

大量のGN粒子を浴びた人間が変革した新たなる姿。優れた空間認識力、強靭な肉体などに加え、特に脳量子波による他者とのコミュニケーションや兵器の遠隔操縦が可能といった特長を持つ。

Illustration by Koma

イノベイター用兵器の誕生背景

イノベイターの出現、既存兵器の限界、関連技術の向上、社会状況の変化により、イノベイター専用機の開発が進められた。純粋種以外でも、相応に脳量子波レベルが高い者なら、イノベイター専用機を操縦可能である。

■ 純粋種イノベイターの出現

西暦2312年の戦乱以降、純粋種のイノベイターが出現し始めた。脳量子波を中心としたイノベイターの能力活用、今後出現するイノベイターの戦力化などが模索された。

デカルト・シャーマン

刹那以外では初めて確認されたイノベイター。西暦2312年、トランザムバーストの中で覚醒した。地球連邦平和維持軍大尉。

ヴェーダが認めた純粋種イノベイターで、能力も突出している。ガデラーザのパイロットを任された。

■ 既存の機動兵器の限界

既存の機動兵器では、イノベイターの能力を十全に発揮できなかった。ダブルオーガンダムやイノベイド用ですら不充分だったようで、イノベイター対応の新型機が求められた。

ダブルオーライザー

ツインドライヴシステム搭載機。トランザムバーストにより意識共有領域を形成できるが、イノベイター用としては性能不足。

西暦2312年当時、最強のMSだった。戦後、CBは粒子貯蔵タンク装備型に改造し、刹那が搭乗した。

CBでの開発

■ 基本方針 —— 対話のための機体

CBでは、イノベイターを相互理解のための存在に位置付けており、イノベイター専用機も「対話のための機体」として開発した。専用機に意識共有領域の形成能力を付与し、それとイノベイターの脳量子波で相互理解を達成する。

「対話」を主眼とするが、戦闘能力も極めて高い。実際、ダブルオークアンタの戦闘能力はダブルオーライザーすら凌駕する。

GNT-0000 ダブルオークアンタ

刹那専用の「対話のための機体」。ダブルオーライザーの後継機にあたり、意識共有領域を形成可能である。

■ 機構Ⅰ —— ツインドライヴシステム

ダブルオーガンダムに続いてツインドライヴシステムを搭載。GNドライヴはツインドライヴ専用に新造されたタイプ。ダブルオーガンダムと異なり、外部安定装置なしで稼働できる。

胸部とGNシールドに1基ずつGNドライヴを搭載している。

■ 機構Ⅱ —— クアンタムシステム

クアンタムバーストにより意識共有領域を形成する。ダブルオーライザーのトランザムバースト以上の高濃度GN粒子を広域散布し、脳量子波を用いて強力な意識共有を行う。

クアンタムバースト時、機体各部のGNコンデンサーを展開する。

■ 機構Ⅲ —— GNソードビット

脳量子波で操作される遠隔兵器GNソードビットを装備。遠隔攻撃だけでなく、組み替えにより様々な兵装を形成できる。GNフィールドの展開、量子ジャンプにも利用可能である。

遠隔攻撃以外にも、GNフィールドの展開などが可能。

地球連邦平和維持軍での開発

■ 戦闘能力の追求

地球連邦平和維持軍では、イノベイターの純粋な軍事利用を目指した。脳量子波は機体や兵装の制御に用いており、戦闘能力に反映された。開発には、西暦2312年の紛争後に得られたイノベイド用機動兵器の技術を用いている。

増加が予想されたイノベイターの軍事利用を想定。イノベイターの能力は、軍縮と戦闘能力の維持・向上を同時に達成できる。

GNMA-YOOO2V ガデラーザ

イノベイター専用MAで、次期主力候補機。全長300mを超える巨体に無数の兵装を備える。MS5個小隊に匹敵する戦闘能力を持つ。

■ 機構Ⅰ —— 多連疑似太陽炉

動力機関として7基の疑似太陽炉を備える。膨大な粒子発生量を誇り、大出力の兵装、大推力のGNスラスターに充分な粒子を供給する。大型GNファング各機も疑似太陽炉を搭載。

3連直列式の疑似太陽炉を2セットと、胴体内に1基を搭載。

■ 機構Ⅱ —— GNファング

大型GNファング14機と小型GNファング140機を搭載（1機の大型GNファングに、10機の小型ファングを格納）。膨大な数だがイノベイターの脳量子波なら全機を同時に遠隔制御できる。

計154機のGNファングは圧倒的な総合火力を発揮する。

■ 機構Ⅲ —— MA本体の兵装群

MA本体の兵装も充実している。長大な大型GNブラスター、GNビームサーベル兼用のGNビーム砲を備える4本の隠し腕、32発のGNミサイルなど、多彩な武装を有する。

大型GNブラスターは、航宙戦艦級の目標でも一撃で破壊する。

地球連邦での開発（西暦2364年頃）

■ 平和利用

ELS襲来から50年が経過すると、イノベイターは人類の4割を占めるに至り、その能力は宇宙開発や宇宙探査に多用されるようになった。イノベイター専用機も兵器ではなく、作業用として開発される例がほとんどのようである。

相互理解が容易なイノベイターの増加は、紛争発生の可能性を著しく低下させた。イノベイターの能力は宇宙進出に多用されている。

GNW-100A サキブレ

ELS搭載のワークローダー。正確にはイノベイター専用ではないが、ELSとの連携はイノベイターが適する。

■ 機構Ⅰ —— オリジナルのGNドライヴ

動力機関としてオリジナルのGNドライヴを搭載。木星で新たに開発製造されたものである。GNドライヴの代わりに、GNコンデンサー（粒子貯蔵タンク）を搭載する機体もある。

西暦2364年に使用されたものは地球連邦が新たに製造した。

■ 機構Ⅱ —— 量子ジャンプ

オリジナルのGNドライヴを搭載する機体は、量子ジャンプが可能である。外宇宙航行艦スメラギに搭載されたサキブレ1号機は、量子ジャンプを行い、異星に到達したという。

超々長距離の量子ジャンプは、GNT-0000が最初に行った。

■ 機構Ⅲ —— ELSとの連携

頭部にELSを格納しており、人間とELSが連携して操作できる（基本操縦は人間、特にイノベイターが担当する）。ELS単独で操作されるタイプも存在するようである。

サキブレはELSの共存を端的に示す機体と言える。

MORE INFO!

イノベイター機とELSの融合

イノベイター専用機とELSが融合し、新たな姿になった機体が存在する。MSにELSを組み込むのではなく、融合・一体化している点が特徴だ。ダブルオークアンタとELSの融合体であるELSクアンタが知られる。イノベイター専用機ではないが、イノベイド用のガルムガンダムとELSが融合したガルムガンダムEも誕生したと言う。

搭乗者はELSと融合したイノベイター、いわゆる「ハイブリッドイノベイター」、すなわち「ハイブリッド種」が多いようである。

ELS クアンタ

ELSの母星に量子ジャンプしたダブルオークアンタが、ELSと融合した姿。ELS同様、定型は持たない模様。

ELSガデラーザ

ELSに融合されたガデラーザとも、ELSがガデラーザに擬態した姿とも言われる。西暦2314年、ELS群と共に地球圏に現れたとされる。

宇宙世紀ガイド

木星船団

Organization of U.C.

宇宙世紀の組織・勢力

核発電に不可欠なヘリウム輸送船団

木星で採取したヘリウム3を地球圏に輸送しているのが、木星船団である（厳密に言えば、木星開発事業団が運営するエネルギー輸送船団が木星船団だが、ここでは、ジオン公国／共和国が独自に編制したヘリウム輸送船団も木星船団に含めている）。

ヘリウム3は、熱核反応／融合炉、つまり核発電機＝ジェネレーターの燃料として使用されるが、現在の地球圏ではほとんど採取できないため、ほぼ木星船団に依存している。木星船団なくして、地球圏のエネルギー戦略は成り立たないのだ。

ヘリウム3を用いる熱核反応炉として、MSや宇宙艦艇などに用いられるミノフスキー・イヨネスコ型熱核反応炉が知られるため、ヘリウム3＝軍需物資と考えられることも多い。だが、太陽発電パネルが普及した宇宙世紀においても、日照条件が悪いエリア、太陽発電パネルを展開しにくい施設や船艇では、熱核反応炉が有用な発電機となっている。軍民を問わず、ヘリウム3は重要物資なのである。

木星船団の成立は、宇宙世紀開始の前まで遡る。当時、ミノフスキー・イヨネスコ型熱核反応炉こそ開発されていなかったが（ミノフスキー粒子そのものが未発見）、旧来型の熱核反応／融合炉は実用化されており、エネルギー供給や宇宙開発のためにも大量のヘリウム3が必要とされていた。

当初、月面から採取されていたヘリウム3だが、ヘリウム3自体の絶対量が少なく短期間で枯渇したようで、新たな採取地が求められた。そこで白羽の矢が立てられたのが太陽系最大の惑星、木星である。

木星の大気には大量のヘリウムが存在しており、ヘリウム3の量も膨大だった。これを受けて、木星でのヘリウム3採取と地球圏への輸送を目的とする、木星エネルギー開発船団が編制された。そしてU.C.0010には、木星エネルギー開発船団は木星開発事業団に再編。採取・輸送隊は、前身組織と同じく木星船団として認知されるに至った。

こうして、人類の生存と発展に不可欠の存在となった木星船団だが、その任務は過酷である。火星や小惑星帯の向こう側、地球から6億kmも離れた木星への航海は長期に亘るうえ、輸送船の閉鎖環境や目前に迫る木星のプレッシャーもあって、精神を病む要員は少なくない。一方で、木星船団の参加者にはニュータイプ能力を開花させた者も多く、人類の変化を促す存在との見方もある。

人類の命運を左右しかねない任務内容から中立の立場を取る木星船団だが、参加者や元参加者（パプテマス・シロッコやフォンセ・カガチが有名）らの思惑で、特定勢力に加担した事例も報告されている。

（ナイト・マンカッド　U.C.0155）

関連ファイル

ジュピトリス	Z-01-34
パプテマス・シロッコ	Z-02-25
フォンセ・カガチ	V-02-18
地球連邦の成立と宇宙世紀の始まり	FG-03-01
ミノフスキー・イヨネスコ型熱核反応炉	FG-03-20
南極条約	FG-03-48
グリプス戦役	Z-03-42

FILE PREVIEW

FG-03-20　ミノフスキー・イヨネスコ型熱核反応炉

MSや宇宙艦艇の主動力源となっている熱核反応炉。旧来型の熱核反応炉に比べ、小型かつ高出力だが、稼働には木星船団からもたらされるヘリウム3を必要とする。

Illustration by JUN WADA

木星船団の役割

木星船団は、木星でのヘリウム3採取と地球圏へのヘリウム3輸送を主任務とする。熱核反応／融合炉の燃料であるヘリウム3の入手と運搬が目的ということだ。地球圏と木星圏の連絡も、重要な任務と言える。

木星船団が運んだヘリウムは、軍事目的で使用されることも多い。ソーラ・レイ・システムにもヘリウムが用いられた。

1 ヘリウム3の採取・輸送

木星船団の設立目的にして、最重要任務。ヘリウム輸送能力を持つ超大型宇宙船を地球圏から木星に派遣し、ヘリウム3を採取・積載した後、地球圏に帰還させる。地球圏では、ヘリウム3がほとんど採取できないため、木星で確保するのが確実だった。人類全体に与える影響力の大きさ（旧世紀で言えば独占的産油国のようなもの）から中立勢力となっており、南極条約では木星船団への不可侵が決められた。

地球圏では多数の熱核反応／融合炉が稼働しており、ヘリウム3は必要不可欠な戦略物資になっている。

MSをはじめとする機動兵器、大小様々な艦艇も熱核反応炉を搭載するため、ヘリウム3が必要である。

2 木星圏との連絡

ヘリウム3の採取施設を維持するため、木星圏に常駐しているとされる技術士や整備員、木星圏に建設されたというコロニー群「木星帝国」など、木星圏に住む人々と接触し、地球圏との連絡を取るのも役割と考えていい。

地球圏との接触が難しい木星圏にも、人間は住んでいる。木星船団は人員や物資の輸送も担うようだ。

木星船団の運行

木星開発事業団が管理する木星船団は、地球圏から木星への航行、木星でのヘリウム3採取と積載、地球圏への帰還航行というサイクルで運行されている（乗組員には地球連邦軍将兵もいる）。往還には最低でも3年、通常は6年かそれ以上かかる。運行に関しては、ジオン公国／共和国のヘリウム輸送船団も同じであった。木星帝国の船団は、さらに高速で航行したようである。

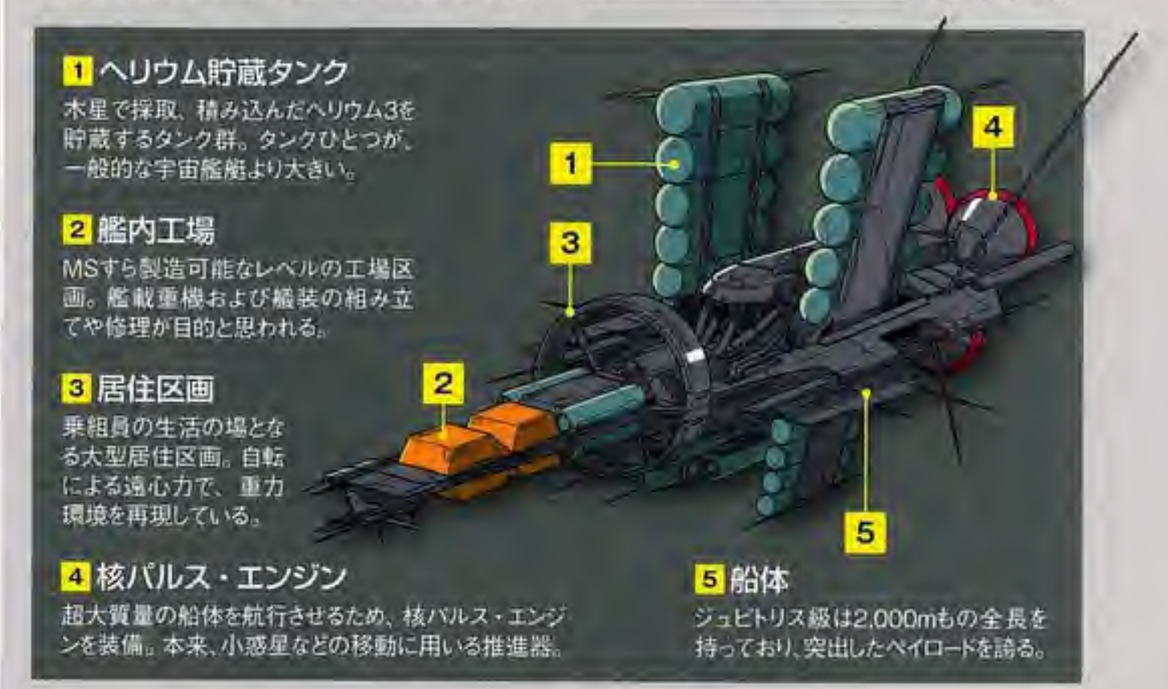
地球・木星間の航路に中継基地が置かれることも。ジオン公国のアクシズがそれに該当する。

航行中の輸送船には、物資運搬コンテナの定期便が届く。慣性航行航路を利用したものだ。

ヘリウム3輸送船

木星船団は、ヘリウム3の大量輸送と長期航行に対応するため、極めて大型の輸送船（輸送艦）を使用している。乗組員たちの生活の場となるため、小型コロニーに匹敵する規模の居住施設や工場区画などを持つ。

木星船団の代表的輸送船、ジュピトリス級惑星間ヘリウム3輸送艦。後継艦としてサウザンズ・ジュピターの系列が知られる。



戦争への協力

木星船団は中立であり、直接的な戦争協力はしない（亡命者の受け入れ、自衛のための戦闘は行う）。しかし、グリプス戦役以降の戦争では、輸送船レベルの判断による特定勢力への協力や、木星船団規模で兵器の輸送などに関与するといった事例がある。

U.C.0087 グリプス戦役期

パプテマス・シロッコ大尉指揮のジュピトリスが、ティターンズの指揮下に入り、共闘した。技術・人員・戦力面での協力が大きかったようだ。戦争末期にはティターンズの中核艦となったが、戦闘の末、撃沈されている。

シロッコによるティターンズ掌握後、ティターンズ旗艦。4機のハンドメイドMSも投入している。

U.C.0123 コスモ・バビロニア建国戦争期

地球帰還直後のサウザンズ・ジュピターが、クロスボーン・バンガード（コスモ・バビロニア）に協力した。ヘリウム3の供給能力を欲したクロスボーン・バンガードが、軍事力を背景に協力させたものだった。

ブッホ・コンツェルンを背後に持つクロスボーン・バンガードにも、ヘリウム3の自給能力はなかった。

U.C.0153 ザンスカール戦争期

木星船団に参加していたザンスカール帝国首相フォンセ・カガチの指示で、巨大サイコミュ要塞「エンジェル・ハイロゥ」の製造と輸送に関与したという。木星船団は、木星連合共和国構想を抱いていたとの説がある。

直径20kmの巨大兵器エンジェル・ハイロゥ。木星船団が地球圏の外で建造、運び込んだとされる。

代表的な木星船団と参加者たち

木星船団には軍人／民間人を問わず様々な人々が参加している。中には、パプテマス・シロッコ、フォンセ・カガチ、ムッターマ・ズガンのように地球圏の趨勢に影響を与えた人物がいたほか、カイ・シデンに代表されるジャーナリストの参加もあった。

ジュピトリス

艦の責任者にしてティターンズの指導者、MS開発者としての顔も持つパプテマス・シロッコが有名。木星師団も参加していた。

ジュピトリスII

第一次ネオ・ジオン戦争でガンダム・チームに参加したジュドー・アーシタとルー・ルカが有名。ふたりはニュータイプと目されている。

サウザンズ・ジュピター

乗組員の安全確保のため、クロスボーン・バンガードに協力した艦長とその夫人が知られる。木星帝国の意向で、意図的に拿捕されたとも言われる。

船名不明

ジオン公国の船団に参加し、ニュータイプ能力に目覚めたシャリア・ブル、ザンスカール帝国首相兼ガチ党党首フォンセ・カガチが有名。

機動戦士ガンダム00

TIMELINE

AD 2312

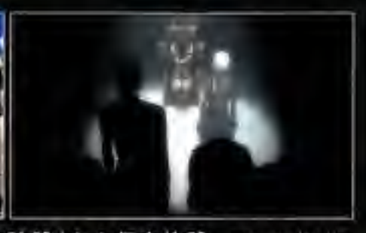
ガンダムマイスター、集結

ツインドライヴ・システムの起動に成功し、活動再開に向けて準備を進める新生CB(ソレスタルビーイング)。しかし本格始動する前に、やらなければならないことがあった。4年前の戦闘以来、連邦軍に監禁されているガンダムマイスター、アレルヤ・ハプティズムの奪還である。

AD 2312

アレルヤの監禁場所が判明する

刹那・F・セイエイとロックオン・ストラトス(ライル・ディランディ)を加えたCBに、エージェントの王留美から新たな情報がもたらされた。4年前の国連軍の決戦以来、消息を絶っていたアレルヤが、連邦軍施設に監禁されているというのだ。しかも同じ施設には、CBへの関与を疑われたマリナ・イスマイールも幽閉されているらしいのである。


文明から隔絶した荒野のただなかに建設された収容施設。アレルヤはこの地に人知れず監禁され、連日の尋問に晒されていたのだった。

王留美からアレルヤに関する情報を得た刹那たちは、ただちに奪還作戦の立案に乗り出そうとした。新生CBの活動にはアレルヤの力が不可欠であることを誰もが感じ取っていたからだ。

AD 2312

アレルヤ奪還作戦、開始

アレルヤとマリナのいる収容施設の防衛態勢は想像以上に厳しく、作戦指揮を担当するスメラギ・李・ノリエガは難色を示す。だが刹那の熱心な説得に折れ、ついに奪還作戦が開始された。作戦は短期決戦。防衛部隊に反撃の隙を与えないために地球衛星軌道上から一気に降下、その後、規定時間内にふたりを救出するという強硬策である。

ついに奪還作戦が開始。その第一段階としてGNフィールドを展開したプトレマイオス2が地球衛星軌道上から急速降下を開始した。

降下速度を維持したまま海上に到達したプトレマイオス2は、そのまま海中に突入。衝撃で巨大な水柱が生じることになった。

水柱は瀑布となって収容施設に襲い掛かり、建物や防衛部隊を次々と呑み込んでいく。また、水しぶきでビームを減衰させる効果もあった。

防衛部隊が混乱している時間は300秒と予想されたが、それだけあれば刹那には充分だったようだ。半壊した施設に侵入すると脇目も振らずに独房へと向かい、アレルヤとマリナを束縛から解放している。

AD 2312

アレルヤ、CBに復帰

スメラギの奇策と刹那たちの活躍もあって作戦は無事成功。アレルヤはCBに復帰し、4人のガンダムマイスターが再集結することになった。しかし同時に救出されたマリナは自由の身になった喜びよりも、胸騒ぎを覚えずにはいられなかったようだ。CBの復活——それは、世界が再び戦乱に包まれるだろうことを意味していたからだ。

独房からの逃走途中、アリオスガンダムを託されたアレルヤは、初めての機体を難なく乗りこなし、自力でプトレマイオス2と合流した。

やっと自由の身となったアレルヤを仲間たちが口々に歓迎する。離れ離れになってから4年の歳月が過ぎ去ったとはいえ、彼らの絆は健在だったようだ。

AD 2312

王留美、アレルヤとマリナに関する情報をCBにもたらす。

アレルヤの監禁場所が判明。身柄の確保が計画される。

スメラギ、奪還作戦に難色を示すが、刹那の説得を受け入れる。

アレルヤ奪還作戦、開始。

プトレマイオス2、地球衛星軌道から収容施設近くの海洋に降下。

高波が発生し、施設防衛部隊に混乱が生じる。

アレルヤとマリナ、刹那の手引きによって収容施設から脱出。

アレルヤとマリナ、プトレマイオス2に合流。

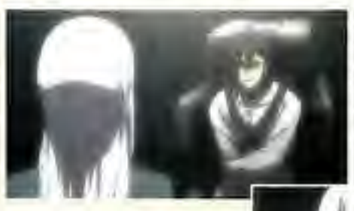
アレルヤ、CBに復帰。

マリナ、CBの保護下に入る。

MORE INFO!

アレルヤとソーマ

4年もの間、アレルヤが監禁されていたのは施設の厳重な監視態勢に起因しているが、その他の理由も考えられる。4年前の決戦の最中、アレルヤは国連軍パイロットである超兵(ソーマ・ピーリス)と遭遇。彼女が超人機関で出会った「マリー・パーファシー」だと直感したというのだ。かつての記憶を失ったアレルヤにとって、ソーマは自分の素性を知る大切な手掛かりであったに違いない。だからこそ彼女に関する情報を得るため、敢えて監禁状態に身を置いたとも考えられるだろう。


尋問者の中にソーマの姿を認めたアレルヤは彼女を「マリー」と呼び、共感を引き出そうとするが……。

実はアレルヤと同じようにソーマも過去の記憶を失っており、ふたりの会話はすれ違うばかりだった。

NEXT PAGE

AD 2312

スメラギ、CB復帰をためらう

ガンダムマイスター集結を受けて士気の高まるプトレマイオス2にあってスメラギだけは沈みがちだった。4年前の国連軍との決戦でクリスティナ・シエラやリヒテンダール・ツエーリといった仲間を失い、CBの活動を後退させてしまった自責の念から抜け出せずにいたのである。とはいえプトレマイオス2の活動には優秀な戦術予報士であるスメラギの能力が不可欠で、仲間たちは彼女を奮い立たそうとする。しかしその声はスメラギの耳に届かなかった。

奪還作戦に成功したプトレマイオス2は海中に身を隠し、次の作戦に備えていた。乗組員たちも整備作業に追われていたのだが……。

ふさぎ込むスメラギを心配したアレルヤは、昔のように彼女と杯を酌み交わそうとする。思わぬ誘いに相好を崩したスメラギだが……。

スメラギだけはやる気を見せず、部屋に閉じこもったままだった。敗戦に起因する自責の念は、彼女から闘志を奪い去っていたのだ。

大好きな酒の力を借りても憂鬱な気持ちを払拭することはできず、アレルヤを退出させたスラヲギは再び塞ぎ込んでしまうのだった。

AD 2312

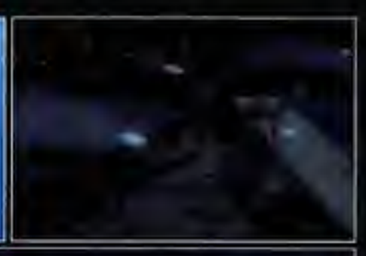
アロウズ、プトレマイオス2に奇襲を仕掛ける

収容施設襲撃に怒りを募らせるアロウズのリント・リーバに、ある情報が寄せられた。未確認物体が海中を航行しているというのだ。それはアロウズの監視から身を隠すプトレマイオス2だった。ただちにリントは攻撃部隊を編制。水中用MAトリロバイトと空母による両面作戦を立案した。プトレマイオス2の戦力はガンダムに依存しているはずだ。ならばガンダムを発進させない方策を練ればいい——リントの作戦は効を奏したかに思われたが……。

リントの命令を受けたトリロバイトがプトレマイオス2に接近。水中での機動性を活かした雷撃戦を仕掛けてきた。

トリロバイトが放った特殊魚雷は、プトレマイオス2が展開するGNフィールドを易々と突破。艦体そのものに損傷を与えている。

損傷個所から艦内に海水が流入。被害はガンダムの格納庫にも及び、機体が水没しかねない危険な状態に追い込まれてしまう。



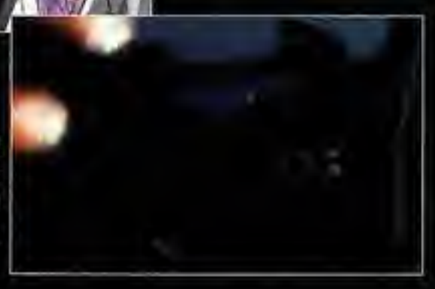
さらに海上からは空母が爆雷攻撃を開始した。特殊弾頭を搭載した爆雷はプトレマイオス2の表面に取り付くと網目状の拘束帯に変化。これによって格納庫ハッチが開かなくなり、ガンダムの出撃ができなくなってしまった。

AD 2312

ガンダム、水中戦を敢行

水中戦を得意とするトリロバイトに翻弄され、プトレマイオス2は損害を重ねていく。このままでは圧潰しかねない。すると仲間の危機を前にしたスメラギが、リーダーとして戦うことをついに決意。巧みな戦術を立ててガンダムを発進させると反撃に転じた。不慣れな水中戦を見事な連携でカバーした4機のガンダムの活躍によって形勢は逆転。トリロバイトを撃破してアロウズ空母に肉薄するなど、ガンダムマイスターとしての能力を見せ付けたのだった。

仲間たちの危機を前にして、ついにスメラギが復活。かつての悲劇を繰り返さないために、もう一度自らの能力を使うことを決意した。



スメラギの指示によって発進することができたガンダム。まずはセラヴィーガンダムがトリロバイトの攻撃を食い止め、動きを封じた。

続いて出撃したダブルオーガンダムがGNソードの一閃でトリロバイトを撃破。プトレマイオス2の危機を救っている。

空母にも攻撃を加えようとする刹那だが、そこにミスター・ブシドーを名乗るパイロットが乱入。やむなく戦場から撤退している。

AD 2312

プトレマイオス2、収容施設から離脱し、そのまま海中を航行。

スメラギ、CB復帰をためらう。

アロウズ、海中を航行するプトレマイオス2を発見。

リント、プトレマイオス2攻撃を指示。水中用MAトリロバイトを中核とする攻撃部隊を編制する。

攻撃部隊、プトレマイオス2を襲撃。

トリロバイト、機動性を発揮してプトレマイオス2を攻撃。

空母からの攻撃により、ガンダムの発進が妨げられる。

スメラギ、プトレマイオス2のリーダーとして戦うことを決意。

ガンダム、スメラギの戦術によって発進に成功。

ガンダム、トリロバイトを撃破。アロウズ空母に肉薄する。

ミスター・ブシドーとソーマ、攻撃部隊に参加。戦いは混戦状態に陥る。

プトレマイオス2、戦闘海域から離脱。

MORE INFO!

スメラギへの歪んだ愛情

過去のしがらみから解放されCBに返り咲いたスメラギに対し、過去の妄執に囚われ続けた人物がいる。かつてのユニオン技術顧問（のちにアロウズ技術部門主任に就任）のビリー・カタギリである。実はふたりはエイフマン教授に教えを受けていた学生時代からの知り合いで、その時分からビリーはスメラギに淡い想いを寄せていた。しかし元来奥手のビリーは気持ちを打ち明けられず、なんとか彼女の気を惹こうと画策。ユニオン技術顧問に就任後、請われるままに軍事機密情報の一端を漏らしたのも、スメラギの歓心を惹きたいという一心からだった。さらに国連軍との決戦後、放心状態のスメラギを引き取ったビリーは、それから2年間、彼女と同棲していたのである。このまま何事もなければビリーの想いは届いたかもしれない。ところがCBの復活を告げる刹那がビリーの部屋を訪問。スメラギがCBの一員であると告げ、そのまま連れ去ってしまった。これにはビリーも驚愕したが、驚きはいつしか「スメラギに利用されていた」との怒りに変貌。以後、CBとスメラギに憎しみを覚えるようになったのである。

絶望するスメラギを支えることに喜びを見出したビリー。だが彼女がCBの一員であることは知らなかった。

のちにアロウズに参加したビリーはプトレマイオス2に乗り込み、スメラギに銃を突き付けるまでに変貌した。

サダラーン
SADALAHN

第一次ネオ・ジオン戦争において、ネオ・ジオン軍が新たな艦隊旗艦とした超大型戦艦。地球圏侵攻のための艦という実戦的な設計思想から誕生した本艦は、グワダン級、グワンバン級を上回る艦体サイズと武装を持ち、ネオ・ジオン軍（と軍を指揮するハマーン・カーン）の力の象徴となった。特に2連装メガ粒子砲を主砲とする対艦砲撃能力の高さは圧倒的であり、同時代の連邦軍艦船を大きく上回っている。またバリュートによる大気圏突入機能を有しており、この機能を使ってダカールへと降下。地球連邦議会の制圧を行った。

【サダラーン】大気圏突入体勢に入るサダラーン。この直後に艦尾からバリュートを展開して大気との摩擦熱を遮断することになる。ちなみに艦体後部にある艦橋は実はダミーであり、本来の艦橋は艦首近くに目立たなく設置されている。このように実戦を考慮した機構が随所に見られるのが、本艦の特徴と言えよう。

サダラーンの艦長
SADALAHN'S CAPTAIN

グワンバンに続いてネオ・ジオン艦隊の旗艦となった、サダラーンの艦長を務める初老の士官。とはいえ艦の指揮はハマーン・カーンが掌握していたため、あまり目立った活躍をする機会はなかったようである。

【サダラーンの艦長】年齢から考えれば旧公国軍軍人と思われるが、歴戦の将の経験や才覚もハマーンの前には及ばなかったようである。だがハマーンからの信頼が低かったわけではなく、有能な補佐役として活躍した。ハマーンがMS戦に出向いた際には艦隊指揮を任されていることなどから、彼の力量がわかるというものである。

サトウ隊長
SATOH

一年戦争終了後、共和制に移行したサイド3（ジオン共和国）で隠棲していた公国軍残党のひとり。エゥーゴやグレミー・トトの部隊からサイド3を守るべく、マシュマー・セロが指揮するエンドラⅡに合流した。その際にシュツルム・ディアス隊の小隊長に任命されたため、「サトウ隊長」と呼ばれることが多い。しかし旧公国軍の理想を追求するあまりにマシュマーの命令を聞こうとしなかったため、謀殺された。主な搭乗機はシュツルム・ディアス。

【サトウ隊長】一年戦争を体験したという初老の男だが、旧公国に対する忠誠心は依然衰えていない。ネェル・アーガマとの戦闘ではブリッジを照準に捉えたが、攻撃の直前にイリア・パゾムから狙撃された。

砂漠の掟

過酷な環境下で生活する砂漠の民には一種独特の習俗があった。「砂漠の掟」と呼ばれるものもそのひとつで、不文律でありながら、砂漠で生活する人々の行動規範を定めた重要なものである。詳しい内容は外部に伝わってこないが、「（砂漠で）困っている者には救いの手を差し伸べる」という考えが根底を成している。

【砂漠の掟】水を求めて砂漠を彷徨っていたジュドー・アーシタたちに水を分け与え、街の場所を教えたマサイ・ンガバ（右）。

ザビ家復興宣言

U.C.0088.08.31、地球連邦政府議会のあるダカールに入ったハマーン・カーンが、地球連邦政府と取り交わした約定。表向きはネオ・ジオンにサイド3を譲渡すれば、連邦に対して危害を加えないというものである。しかしこれは言外にザビ家再興を容認することを含んでいた。この宣言後、サイド3のジオン共和国は消滅し、新たにミネバ・ラオ・ザビを女王とする政権、すなわちザビ家主導の国家が誕生することになった。ただしネオ・ジオン壊滅後にこの宣言は取り消され、ジオン共和国が復活している。

【ザビ家復興宣言】ザビ家の復興を祝して催された祝賀会に出席したハマーンとミネバ。並み居る連邦政府高官を前に自らの威光を振りかざしたのだが、その栄光も4ヶ月あまりしかもたなかった。

サマーン
SAMARN

アーガマの右舷のナビゲーター補佐。グリプス戦役に引き続き、第一次ネオ・ジオン戦争でも、アーガマ隊の一員として参戦した。

【サマーン】ネェル・アーガマには乗らず、ブライト・ノアと共に後方へと退いた。その際、ネェル・アーガマの武運を祈って、サマーン（中央）の手で発光信号が上げられている。

サラサ・ムーン
SARASA MOON

宇宙移民の初期段階に建造された旧式コロニー「ムーン・ムーン」に暮らす少女。ムーン・ムーンの民は機械文明の排除を唱える「ヒカリの教え」を信奉しており、その教祖がサラサである。彼女はコロニー住民のためを思って教祖としての役割を務めていたが、副官ロオルによってその教えは捻じ曲げられてしまう。そのため血を分けた双子の姉妹（ラサラ・ムーン）と仲違いするまでになった。しかし、ムーン・ムーンに寄港したアーガマとジュドー・アーシタらの活躍によってロオルは改心し、姉妹は和解。その後は見聞を広めるべくコロニーの外の世界を見て回っていたが、サイド3のタイガーバウムでアーガマ隊の面々と再会した。

【サラサ・ムーン】若くして神秘的な雰囲気を身にまとい、教祖として高いカリスマ性を持つサラサ（右）。さらに優秀なニュータイプ能力者であったらしく、タイガーバウムでハマーン・カーンと出会った際には、相手が放つ「悪しきものの根源の気」を感じ取った。しかしその気が、本質的にはジュドーと同じであるとし、ふたりが引き合う原因であると見抜いた。

サンドラ
SANDRA

ネオ・ジオン軍が開発したエンドラ級軽巡洋艦の1隻。基本性能はベース艦と変わらないが、艦体色が青系統に変更されているのが特徴である。また内部にはプルツーをはじめとするクローン戦士が眠るコールドスリープ設備が用意されている。グレミー・トトの座乗艦。

【サンドラ】コロニー落としが行われたダカール地区に現れたサンドラ。MS運用母艦として高い能力を誇るものの、サイコ・ガンダムMk-Ⅱは搭載し切れず、艦尾に特設デッキが増設されることになった。

[し]

シーサー
CAESAR

アーガマの左舷ナビゲーター。グリプス戦役後は第一次ネオ・ジオン戦争にも参加し、サエグサの代わりとして操舵手を務めることもあった。ただしネェル・アーガマには乗艦せず、ブライト・ノアたちと共に第一線を退いている。

【シーサー】ブライトにネェル・アーガマが引き渡される際、ネオ・ジオン軍の襲撃を受け、シーサー（右）はラビアンローズで管制を担い、そのままサマーン（左）と共にネェル・アーガマの出港を見守った。

Gフォートレス
G FORTRESS

ZZガンダムが変形した飛行形態で、重爆撃機として機能する。この形態に変形すると機動力が増加するので、ZZガンダムの作戦行動半径の向上を目的とした仕様と考えられる。ただし実戦ではほとんど利用されなかった。これは、Gフォートレス状態ではZZガンダムの絶大な攻撃力を充分に発揮できないためである。

【Gフォートレス】コア・トップ、コア・ベース、ネオ・コア・ファイターの3機が合体した飛行形態。基本的に3機それぞれ分離しての運用が多かった。複雑な変形機構を有すため、整備は大変だったと思われる。

下町

サイド1に建設されたシャングリラには、ジャンク屋を生業としているものが多く住み着いたことで知られる。彼らは幾多の戦乱によって宇宙空間に生じた大小さまざまなデブリやジャンクパーツを回収していたのである。そのためコロニー内壁の居住区にはあちこちにジャンク山が築かれ、居住区全体も雑然とした雰囲気を帯びていた。そこで、シャングリラの住民はこの地域一体を「下町」と称した（これに対して、コロニー両端の高台になった場所は「山の手」と呼ばれ、主に高所得者層が暮らす場所となった）。下町の住民は、口は悪いながらもバイタリティーに溢れ、戦時中においても逞しく日々の生活を送っていた。また目端の利く者も多く、生活費の足しになるなら盗みもためらわない者がほとんどだったとされる。のちにZZガンダムのパイロットになるジュドー・アーシタや彼の仲間たちも下町出身者であり、シャングリラに入港したアーガマからZガンダムを盗み出そうとしたことから、エゥーゴと関わりを持った。

【下町】下町はアパートと商店が所狭しと軒を並べた生活感の溢れる空間となっている。ジュドーたちが事あるごとに発揮した逞しさは、そのような下町での生活によって育まれたものなのであろう。

島1号型コロニー

旧世紀の物理学者G・K・オニール（ジェラルド・K・オニール）が提唱したスペース・コロニーのひとつであり、宇宙世紀では実際に宇宙移民の生活の場として建造された。「島1号型（アイランド1）」と呼ばれるこのタイプは、半径3kmの球状の居住区（バナール球殻）と、積層化したユニットで構成された農業プラント、居住区を取り囲むドーナツ形のミラーで構成されている。遠心力を利用して擬似重力を発生させ、居住者は球の内壁を生活場所とする。また回転軸に近い両極は遠心力が弱くなるため、ここを窓とし、ミラーによって反射された太陽光を取り入れるようになっている。ただし、居住面積があまり広く取れないという構造上の欠点があり、のちに建造された「島3号型コロニー」の試験用に利用されることが多かった。そのため宇宙移民が本格化し始めると、このタイプのコロニーは建造されなくなったということである。

【島1号型コロニー】コロニー「ムーンムーン」は、典型的な島1号型コロニーだ。中央のバナール球殻とそれを取り巻くドーナツ形のミラー構造が見て取れる。球殻から伸びる構造物は宇宙港と付属設備。

【ジムIII】ネオ・ジオンに制圧されたダカールを奪回するため、カラバの主力機として戦線投入されたジムIII部隊。ジム・タイプの伝統である「生産性の高さ」は本機にも受け継がれており、物量に物を言わせた作戦によってネオ・ジオンを撤退に追いやった。

ジムIII
GM III

第一次ネオ・ジオン戦争時に、カラバがアナハイム・エレクトロニクス社（AE）と協力して開発したジム・タイプMS。従来のジムIIをベースにしつつ、ガンダムMk-IIの技術を導入することで、機体性能を大幅に向上させることに成功した（肩部装甲の形状にジムII、バックパックの形状にガンダムMk-IIからの影響を見て取ることができる）。基本装備はビーム・ライフルとビーム・サーベル、専用シールドとスタンダードだが、機体各所にオプション装備用のマウント・ラッチが用意されている。必要に応じて各種ミサイル・ポッドを装備することで、高い汎用性と火力を実現したのである。ジム・タイプと聞くと量産性を重視した廉価版というイメージが付きまとうが、本機はそのような評価を一掃するだけの能力を有している。それは戦乱終結後に本機が地球連邦軍に制式採用され、U.C.0093に勃発した「シャアの反乱」において実戦投入されたことからも明らかである。

ジャムル・フィン
JAMRU-FIN

第一次ネオ・ジオン戦争時にネオ・ジオン軍が開発した可変MA（TMA）。本来は大型MAとして開発されていた機体をTMAに設計変更したという経緯を持つ。そのため頭部や腕部、脚部といった機体各部は急造パーツで構成されている。とはいえMA形態を基本とする本機は高い機動性を発揮。さらにハイ・メガ・キャノンをはじめとする大出力射撃兵装を装備しているため、急造とは思えないほどの性能を有している。本機が配備された「スリーD」隊は、機体性能を活かした三位一体の連携攻撃（技名もスリーDと呼ばれた）を得意とし、ガンダム・チームを苦しめている。主なパイロットはダニー、デル、デューン。

【ジャムル・フィン】長い首と突出した肩部装甲、それに対して小さ過ぎるマニピュレーターが猛禽類のような印象を与える。さらに、高い機動性も鳥類を連想させ、ZZガンダムもその動きに翻弄された。

ジャンク屋

宇宙空間を漂流するジャンク（スペース・デブリとも呼ばれる）の回収・転売を生業とする人々の総称。人類が宇宙を生活の場として以来、宇宙は人間の排出する屑で汚染されることになった。一年戦争をはじめとする幾多の戦乱は、破壊されたMSや艦船のパーツを軌道上に撒き散らし、中には宇宙船の航行に支障を来すほどジャンクの密度の濃い宙域が誕生するほどだった。このジャンクを回収したのがジャンク屋の走りだったと言われる。ただしMSや戦艦のパーツには民生品には使用されていない貴重な素材やパーツが多く、これを回収・転売することで一攫千金を狙う者が現われ、現在のようなジャンク屋という職業が形作られたのである。さらにジャンク屋によっては、集めた廃材を使ってオリジナルMSを組み立てるほどの技術を有する者もいたようだ。

【ジャンク屋】人手とノーマルスーツなどの宇宙用装備があれば誰にでもできる職業なので、コロニーに暮らす子供たちは生活費を稼ぐためにジャンク屋でバイトをすることが多かった。とはいえ高価なジャンクが見つかるかどうかは運任せであるのだが……。

ジャンク屋組合

U.C.0088のサイド1、1バンチ・コロニー（シャングリラ）はジャンク屋が多数在籍する場所として知られており、彼らは「ジャンク屋組合」と呼ばれる共同体を形成していた（リーダーはゲモン・バジャック）。組合の活動内容の詳細は不明だが、ノーマルスーツやプチ・モビ等のレンタル業を行っていたことが記録に残っている。レンタル料は法外な額だったが、道具がなければジャンクを回収できないため、ジャンク屋たちは渋々ながらも利用していたようだ。

シャングリラ
SHANGRILA

サイド1、1バンチ・コロニーの名称。宇宙移民が開始された初期段階に建設された由緒あるコロニーであり、「理想郷（シャングリラ）」の名に開拓時代の気概が窺える。ただしU.C.0088では工業用コロニーとなっており、空気や電力といったインフラの価格はかなり高額だった。そのため住民間の貧富の差が激しく、「山の手」は高級住宅街、対する「下町」は工業地帯となっていてジャンク屋も多数働いている。ちなみにエゥーゴとティターンズの対立の影響で、景気はあまり良くないらしい。

【シャングリラ】典型的な開放型コロニーであるシャングリラ。ジュドー・アーシタをはじめとする子供たちの故郷であり、この地に傷付いたアーガマが寄港したことから、新しいニュータイプ伝説が誕生することとなった。

シュツルム・ディアス
SCHUZRUM-DIAS

形状や型式番号（RMS-099B）から判断できるように、グリプス戦役でエゥーゴが運用したリック・ディアス（RMS-099）の改修機である。グリプス戦役終結後、アナハイム・エレクトロニクス社（AE）によって開発されたこの機体は、エゥーゴのエースパイロットに配備されるはずだった。しかしネオ・ジオンの支持者によって奪われ、ジオン共和国を通じてネオ・ジオンへと渡ってしまう。その結果、マシュマー・セロの指揮下に編入され、図らずもネェル・アーガマ隊と戦火を交えることになった。なお、コア3の守備なども担当している。主な搭乗者はサトウ。

【シュツルム・ディアス】外見上はほぼリック・ディアスと変わりないが、背部に増設されたグライ・バインダーが本機の特徴となっている。大型ベクタード・スラスターとビーム・カノンを組み合わせたこの装備によって、本機はベース機以上の攻撃力と機動性を獲得した。だが、実戦では目立った活躍は示せなかったようだ。

【ジャンク屋組合】ネオ・ジオンに心酔するゲモンは、アーガマをシャングリラから追放させようとした。しかし、元々人望のないゲモンの言葉に従おうとする者はほとんどいなかった。

お買い忘れなく安心！発売日をメールでお知らせします！　ご登録ください

発売日お知らせメール♪

PC用 http://deagostini.jp/oshirase/gpf/

携帯用 http://deagostini.jp/gpf/　携帯用QRコード➡

COMING NEXT ISSUE..

《次号予告》

LINE UP

第52号　ラインナップ

MECHANIC FILE

アッシマー

リック・ディアス

ジム寒冷地仕様

ムットゥー／キャノン・イルフート

ジム・ライトアーマー／ジム・トレーナー

PERSONAL PROFILE

ブラン・ブルターク

アポリー／ロベルト

地球の民間人①（ウィル・ゲイム 他）

マリナ・イスマイール

WORLD GUIDE

黒歴史と最終戦争

メールシュトローム作戦と三つ巴の戦い

中東諸国

U.C.TIMELINE

ニューホンコンでの戦い

GLOSSARY

『機動戦士ガンダムZZ』用語集

第52号

定価590円（税込）

9月18日（火）発売

※地域によって発売日が異なる場合があります。

マリナ・イスマイール

ジム・ライトアーマー／ジム・トレーナー

今号には

ファイリングに便利な
「ナンバーステッカー」
「章別ステッカー」
が付いています。

■ ナンバーステッカー

■ 章別ステッカー

新しいバインダーにファイリングするための方法

週刊『ガンダム パーフェクト・ファイル』はページごとに簡単に切り離せるようになっています。創刊号のバインダーに付いているディバイダー（仕切り台紙）を使って、別売りの特製バインダー（2冊組み・税込み590円）にファイリングしていきましょう。

6冊目、7冊目のバインダー（別売り）の背に今号に添付されているナンバーステッカー[06]と[07]を貼ります。

[01]～[07]のバインダーに、下記の「各バインダーの構成」どおりに各章別ステッカーを貼り直します。その際には、今号付属の章別ステッカーも使用します。

下の「各バインダーの構成」通りに、各章のシートを入れ替えて綴じ込みます。毎号7冊のバインダーにそれぞれファイリングしていきましょう。

各バインダーの構成

■01のバインダーには、
【宇宙世紀1 A】（※FILE：FG ～08）

■02のバインダーには、
【宇宙世紀1 B】（※FILE：IGL ～80）
【宇宙世紀2 A】（※FILE：83～Z）

■03のバインダーには、
【宇宙世紀2 B】（※FILE：GD ～ZZ）

■04のバインダーには、【宇宙世紀3】

■05のバインダーには、【未来世紀 他】

■06のバインダーには、
【コズミック・イラ 他 A】（※FILE：SEED ～DES）

■07のバインダー7には、
【コズミック・イラ 他 B】（※FILE：SG ～AGE）
【その他】

※ファイリングの際に、金具に手や指をはさまないよう、充分にご注意ください。　※参考のためのファイリングですので、自由に並び替えて使用してください。

週刊「ガンダム パーフェクト・ファイル」全員プレゼントの応募券です。切り取って専用応募ハガキに貼り付けて、ご応募下さい。詳しくは定期購読用のお知らせ用紙をご覧下さい。

応募券 GPF-N 51

THE OFFICIAL

GUNDAM PERFECT FILE

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル

51

MECHANIC FILE

ダブルオークアンタ／Sガンダム／
ガデラーザ／ジュピトリス／ハイペリオン

PERSONAL PROFILE

刹那・F・セイエイ／
デカルト・シャーマン／アムロ・レイ／
カイ・シデン／セイラ・マス

WORLD GUIDE

来るべき対話／
純粋種イノベイター用
機動兵器／
木星船団

AD TIMELINE

ガンダムマイスター、集結

GLOSSARY

『機動戦士ガンダムZZ』
用語集

今週のMS❷
MSA-0011 "S"GUNDAM

刹那・F・セイエイ

木星船団

今週のMS❶
GNT-0000 00 QAN[T]

©創通・サンライズ
©創通・サンライズ・MBS

週刊 ガンダム パーフェクト・ファイル No.51
2012年9月25日発行（毎週火曜日発行） 通巻51号
発行所：〒104-6205 東京都中央区晴海1-8-12トリトンオフィスタワーZ 株式会社デアゴスティーニ・ジャパン
発行人：小河原和世 編集人：クロス中山慶子
書店専用注文センターTEL:03-5212-5311（月～金9:30～17:30土日祝日を除く） FAX:03-5212-5312 書店専用注文WEBサイト:http://dbooks.net/

4910205640924
00562

雑誌 20564-9/25 通巻51号
Ⓛ-2017/3/1 2012年9月25日発行

発行所—デアゴスティーニ 定価 590 円
本体 562 円

MECHANIC FILE

モビルスーツ：GNT-0000 ダブルオークアンタ

00 FILE 01 SHEET 19A

GNT-0000

00 QAN[T]

ダブルオークアンタ

Illustration by SEIICHI NAKATANI Color by AKEMI NAGAO Wire Special Effect by SHIN INOUE Background by EIJI WAKAMATSU KUSANAGI

MSA-0011
"S"GUNDAM
Sガンダム

Illustration by IWAO TERADAKA　Color by KEIICHI HANADA　Special Effect by NAORI SATOU